

2019年度
就職・採用活動に関する調査（大学等）
調査結果【速報版】

2019年10月

本調査結果（速報版）は今後、分析・検討、データの更なる精査を経て、最終版を公表する予定

調査の概要

(1) 調査の目的

就職・採用活動開始時期については、学生の学修時間の確保の観点から、一定の時期を設けて行われており、2016年度からは学生の就職・採用活動の早期化・長期化の是正の趣旨から、広報活動を「卒業・修了前年度の3月1日以降」、採用選考活動を「卒業・修了年度の6月1日以降」として、ここ数年堅持しているところである。

文部科学省としては、学生の不安を解消する観点から、学生の就職活動の状況を十分に把握した上で、大学等関係団体と経済団体等がともに今後の就職・採用活動の在り方について、議論し、改善していくことが重要であると考えている。

以上のことより、2019年度卒業・修了予定者の就職・採用活動の実態を把握し、今後の就職・採用活動の円滑な実施の検討に資するため、本調査を実施する。

(2) 調査主体

文部科学省（就職問題懇談会と協力して実施。）

※調査票の郵送、回収、集計はテントセント株式会社にて実施

(3) 調査実施方法

対象：全国の国公立大学、短期大学及び高等専門学校 計1,177校

方法：調査票の送付

期間：2019年7月12日（金）～2019年8月7日（水）

※8月1日現在の状況を回答

(4) 回答率

発送数 : 1,177件

有効回答件数 : 1,106件

回答率 : 94.0%

【内訳】

国立大学	98.8%	公立大学	97.8%	私立大学	97.1%
公立短期大学	94.1%	私立短期大学	84.6%		
国立高専	98.0%	公立高専	100.0%	私立高専	100.0%

(5) 留意点

この「速報版」における「大学等」とは、大学、短期大学及び高等専門学校である。

調査結果

I. 回答大学等の属性

学校種別

(回答大学等の数)	国立大学	公立大学	私立大学	公立短期大学	私立短期大学	国立高専	公立高専	私立高専
1,106	85	91	595	16	263	50	3	3
	7.7%	8.2%	53.8%	1.4%	23.8%	4.5%	0.3%	0.3%

大学院設置の有無（短期大学、高等専門学校を除く）

(回答大学等の数)	設置している	設置していない	無回答
771	615	152	4
	79.8%	19.7%	0.5%

設置している学部

(回答大学等の数)	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医学 歯学 看護学	薬学
1,106	361	436	121	247	76	275	73
	32.6%	39.4%	10.9%	22.3%	6.9%	24.9%	6.6%

保健(医学、 歯学、看護 学、薬学以 外)	商船	家政	教育	芸術	その他
210	7	208	419	123	175
19.0%	0.6%	18.8%	37.9%	11.1%	15.8%

※次頁以降の集計では、「人文科学」、「社会科学」、「家政」、「教育」、「芸術」、「その他」を設置している大学等を「文系」とし、「理学」、「工学」、「農学」、「医学、歯学、看護学」、「薬学」、「保健(医学、歯学、看護学、薬学以外)」、「商船」、を設置している大学等を「理系」として取り扱う。

所在地域

(回答大学等の数)	北海道・ 東北	関東(東京 都以外)	東京都	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
1,106	129	168	173	196	210	110	120
	11.7%	15.2%	15.6%	17.7%	19.0%	9.9%	10.8%

本年度の卒業対象学生数

(回答大学等の数)	100名未満	100名以上 500名未満	500名以上 1,000名未満	1,000名以上 2,000名未満	2,000名以上 4,000名未満	4,000名以上	(無回答)
1,106	168	586	126	125	55	35	11
	15.3%	53.5%	11.5%	11.4%	5.0%	3.2%	1.0%

Ⅱ. 就職・採用活動時期に関する大学等の取組について

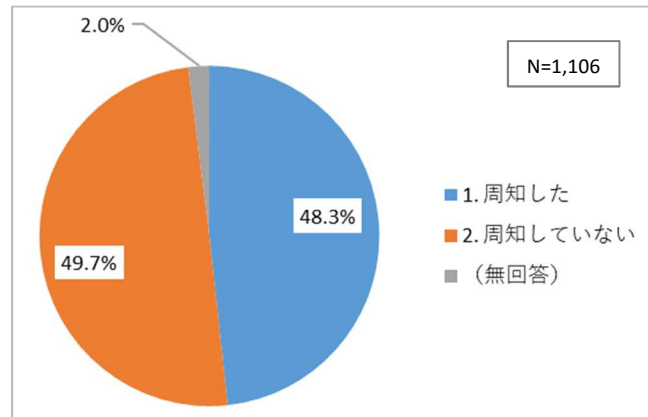
【企業に対する「申合せ」の周知状況について】

(1) 企業に対する「申合せ」の周知状況

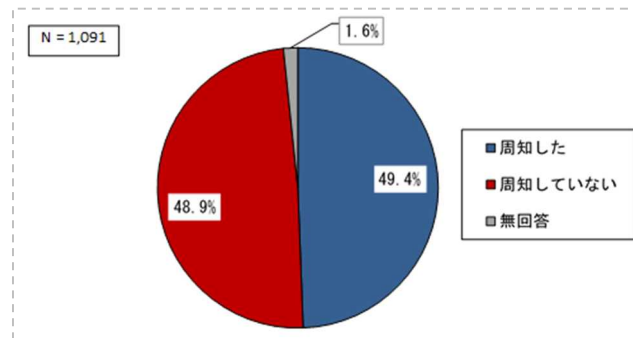
○企業に対して、就職問題懇談会の「申合せ」に記載されている就職・採用活動開始時期の遵守や学生の学業への配慮等を周知したか尋ねたところ、「周知した」と回答した大学等は48.3%、「周知していない」と回答した大学等は49.7%であった。

○昨年度調査と同様「周知した」と「周知していない」とがほぼ同割合であった。

就職問題懇談会の「申合せ」の内容を企業等に対して、周知しましたか。(当てはまるものを一つ選択)



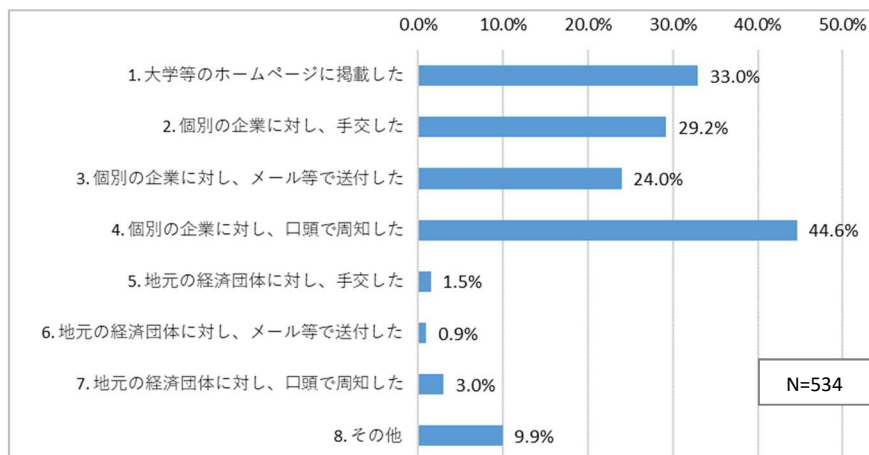
[参考：昨年度調査]



(2) 企業への「申合せ」の周知方法

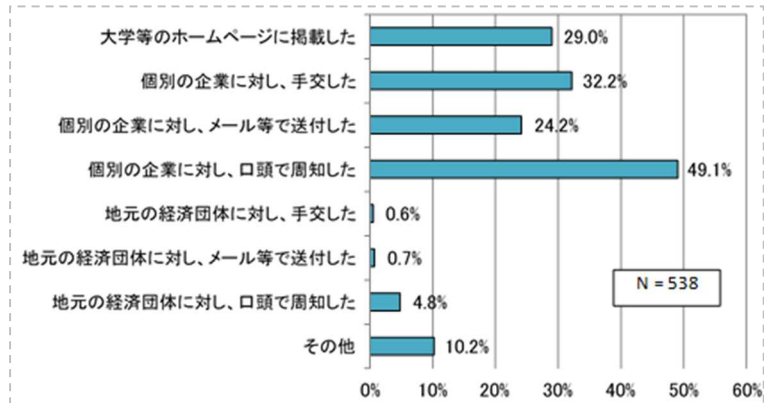
○申合せを「周知した」と回答した大学等(534校)に対し、どのような方法で企業に対し周知したのか尋ねたところ、「個別の企業に対し、口頭で周知した」と回答した大学等が44.6%と最も多く、次いで「大学等のホームページに掲載した」(33.0%)、「個別の企業に対し、手交した」(29.2%)であった。

企業等に対してどのように「申合せ」の内容を周知しましたか(当てはまるものを全て選択)



※周知したと回答した534校に対して質問

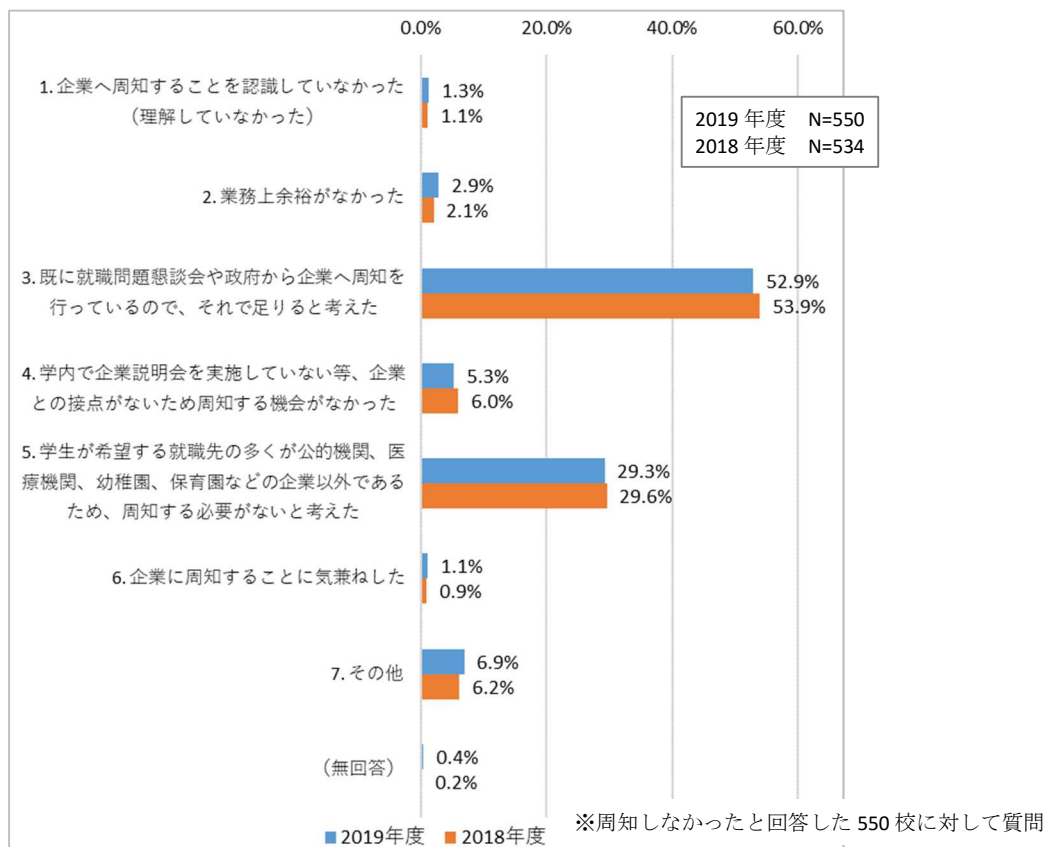
[参考：昨年度調査]



(3) 企業に対して周知していない理由

○申合せを「周知していない」と回答した大学等（550校）に、周知しなかった理由を尋ねたところ、「既に就職問題懇談会や政府から企業へ周知を行っているので、それで足りると考えた」と回答した大学等が52.9%と最も多く、次いで「学生が希望する就職先の多くが公的機関、医療機関、幼稚園、保育園などの企業以外であるため、周知する必要がないと考えた」と回答した大学等が29.3%であった。

企業に対して周知しなかった理由は何ですか（当てはまるものを一つ選択）

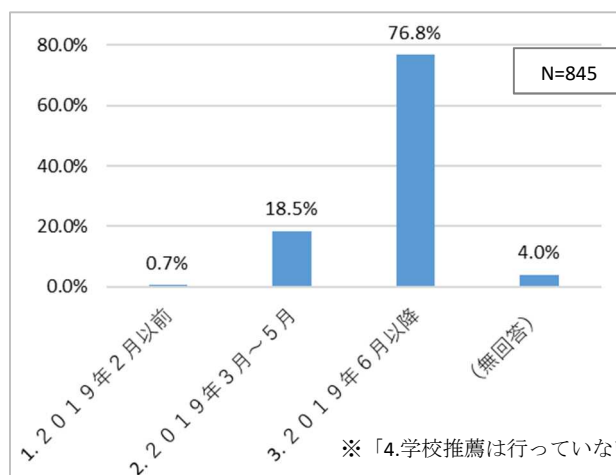


(4) 学校推薦について

○「申合せ」では「学校推薦は、卒業・修了年度6月1日以降とすることを徹底する」としているが、学校推薦としての推薦状の発行を何月以降に行っているか尋ねたところ、「2019年6月以降」と回答した大学等が76.8%であった。一方、「2019年2月以前」は0.7%、「2019年3月～5月」と回答した大学等は18.5%であった。

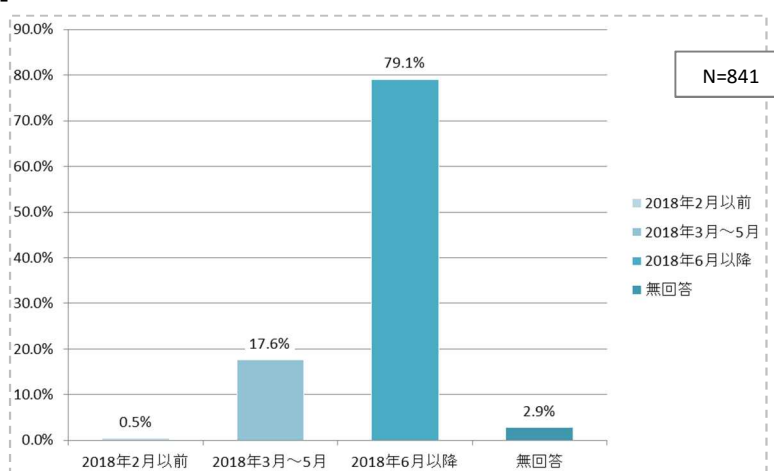
※1, 106校のうち、「行っていない」と回答した261校を除外して集計した。

学校推薦としての推薦状の発行は何月以降に行っていますか（当てはまるものを一つ選択）



※「4.学校推薦は行っていない」と回答した261校を除いて集計

[参考：昨年度調査]



Ⅲ. 本年度の就職・採用活動の状況について

【本年度の卒業・修了予定者の就職・採用活動時期について】

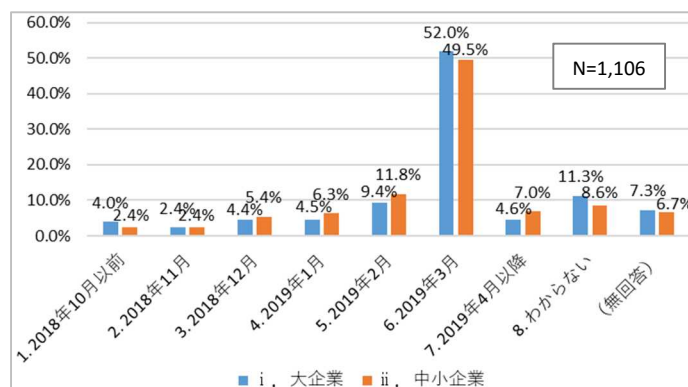
(1) 広報活動開始時期

① 企業全体の動向

○学生が就職活動を行った企業について、多くの企業が広報活動を開始した時期を尋ねたところ、大企業については「2019年3月」と回答した大学等が52.0%と最も多く、2019年3月以降という割合は56.6%であった。また、中小企業については「2019年3月」と回答した大学等が49.5%と最も多く、56.5%の大学等が3月以降に開始と回答した。

○昨年度の調査と比較すると、大企業について3月以降と認識している大学等の割合は8.4ポイント減少し、中小企業について6.0ポイント減少した。

多くの企業が広報活動を開始した時期はいつ頃でしたか（当てはまるものを一つ選択）



【本年度の卒業・修了予定者に対する企業の採用選考活動時期について】

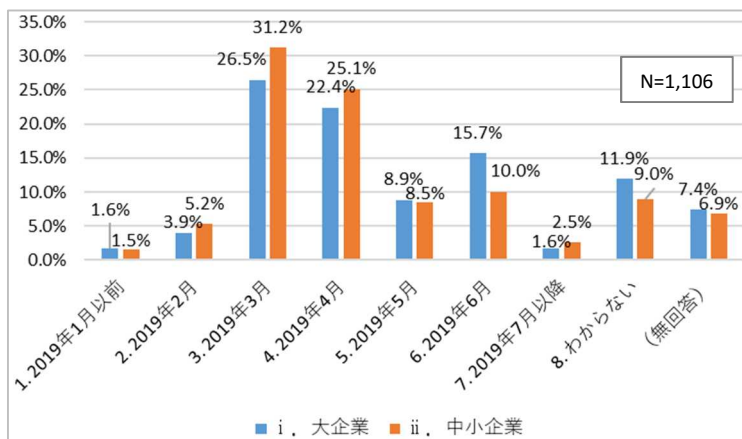
(2) 採用選考活動開始時期

①企業全体の動向

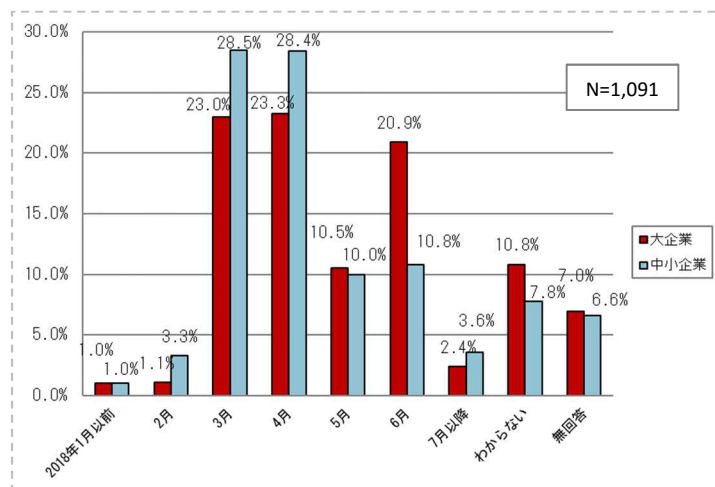
○学生が就職活動を行った企業について、企業が採用選考活動を開始した時期を尋ねたところ、大企業については「3月」と回答した大学等が26.5%と最も多く、6月以降という割合は17.3%であった。また、中小企業については「3月」が31.2%と最も多く、12.5%の大学等が6月以降に開始と回答した。

○昨年度の調査と比較すると、6月以降と認識している大学等の割合は、大企業について6.0ポイント減少し、中小企業については1.9ポイント減少した。

多くの企業が採用選考活動を開始した時期はいつ頃でしたか（当てはまるものを一つ選択）



[参考：昨年度調査]



②文系学生が就職活動を行った企業の動向、③理系学生が就職活動を行った企業の動向

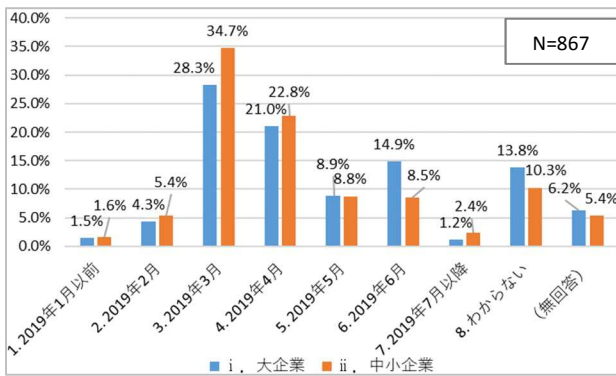
○学生の文理別についてみると、企業の採用選考活動開始を6月以降と認識している大学の割合は以下の通りであった。

文系学生が就職活動を行った企業：大企業 16.1% (▲7.0ポイント)
 中小企業 10.9% (▲2.3ポイント)
 理系学生が就職活動を行った企業：大企業 14.6% (▲3.7ポイント)
 中小企業 13.1% (▲0.4ポイント)

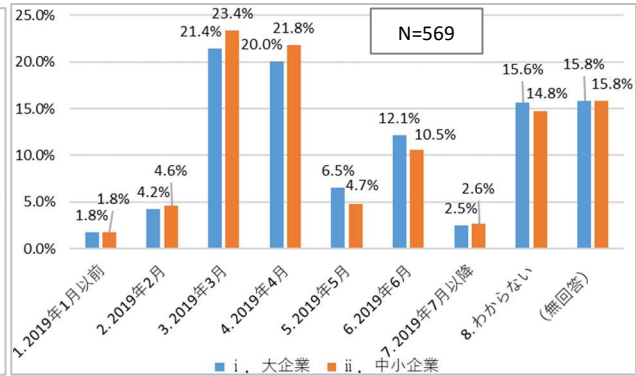
文系学生と理系学生とでの大きな差は見られなかった。

多くの企業が採用選考活動を開始した時期はいつ頃でしたか（当てはまるものを一つ選択）

②文系学生が就職活動を行った企業の動向

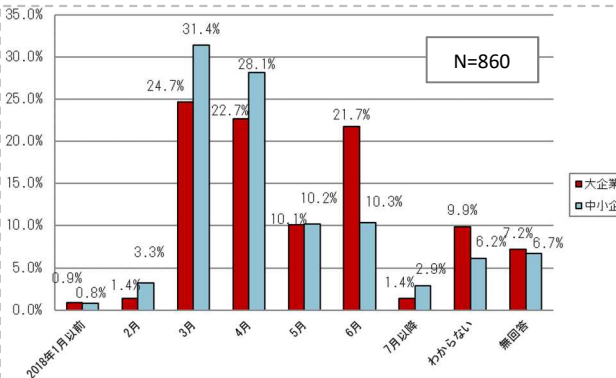


③理系学生が就職活動を行った企業の動向

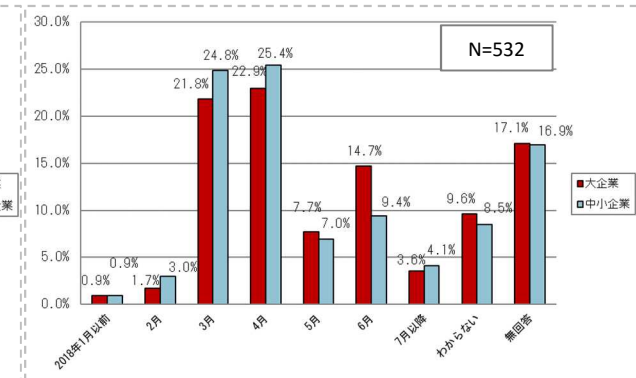


[参考：昨年度調査]

②文系学生が就職活動を行った企業の動向



③理系学生が就職活動を行った企業の動向



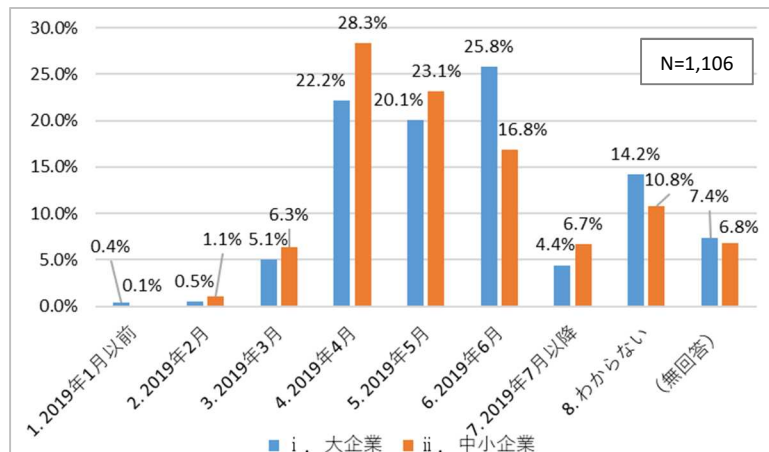
(3) 採用面接を実施した時期について

①企業全体の動向

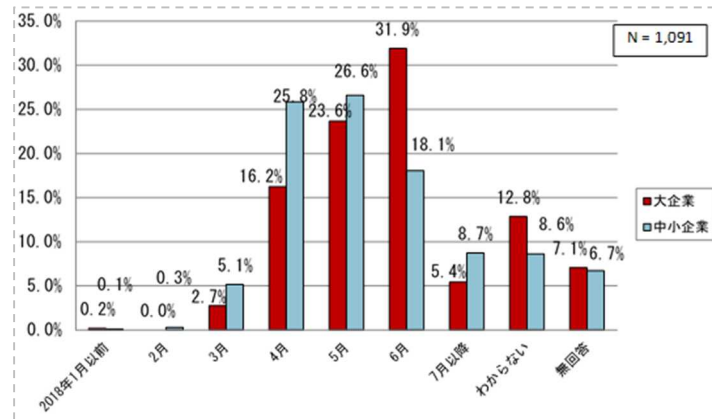
○学生が就職活動を行った企業について、企業において採用面接を実施した時期のピークを尋ねたところ、大企業については「2019年6月」との回答が25.8%と最も多く、次いで「2019年4月」(22.2%)、「2019年5月」(20.1%)であった。また、中小企業については「2019年4月」が28.3%と最も多く、続いて「2019年5月」(23.1%)、「2019年6月」(16.8%)の順となった。

○なお、昨年度の調査と比較すると採用面接のピーク時期については、大企業は6月で、中小企業は4月～5月という傾向は変わらない。

企業において、採用面接を実施した時期のピークはいつ頃でしたか（当てはまるものを一つ選択）



[参考：昨年度調査]



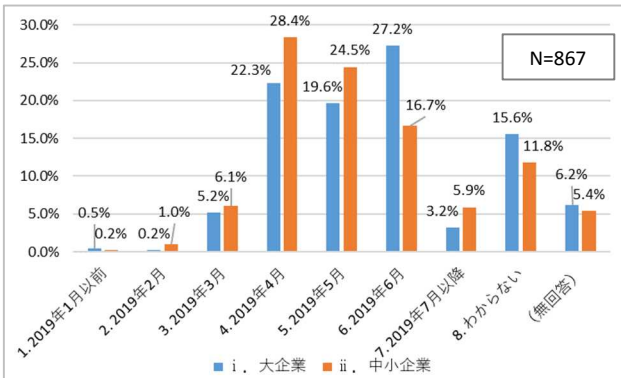
②文系学生が就職活動を行った企業の動向、③理系学生が就職活動を行った企業の動向

○学生の文理別にみると、採用面接のピーク時期として最も多い回答は以下のとおりであった。

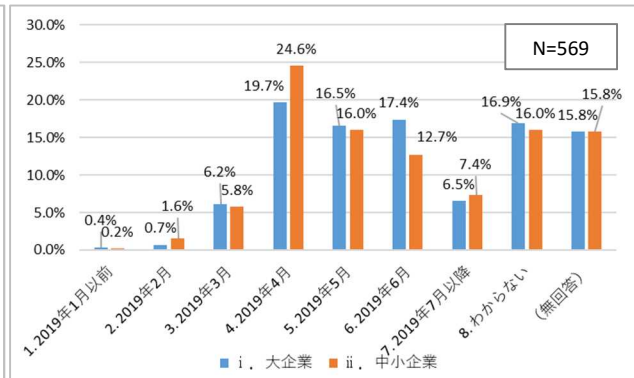
文系学生が就職活動を行った企業：大企業 2019年6月 (27.2%)
 中小企業 2019年4月 (28.4%)
 理系学生が就職活動を行った企業：大企業 2019年4月 (19.7%)
 中小企業 2019年4月 (24.6%)

企業において、採用面接を実施した時期のピークはいつ頃でしたか(当てはまるものを一つ選択)

②文系学生が就職活動を行った企業の動向

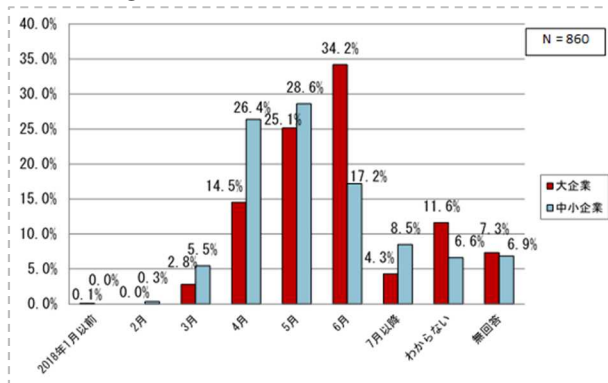


③理系学生が就職活動を行った企業の動向

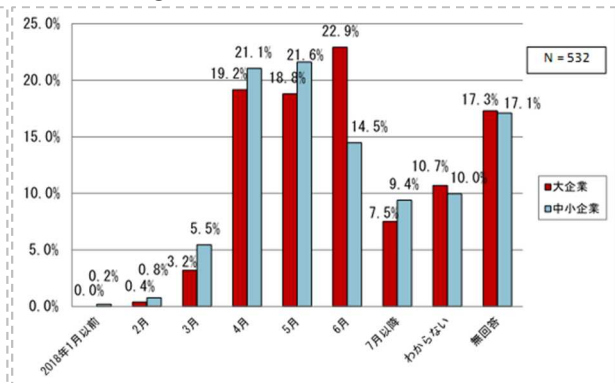


[参考：昨年度調査]

②文系学生が就職活動を行った企業の動向



③理系学生が就職活動を行った企業の動向



【本年度の卒業・修了予定者の就職活動時期について】

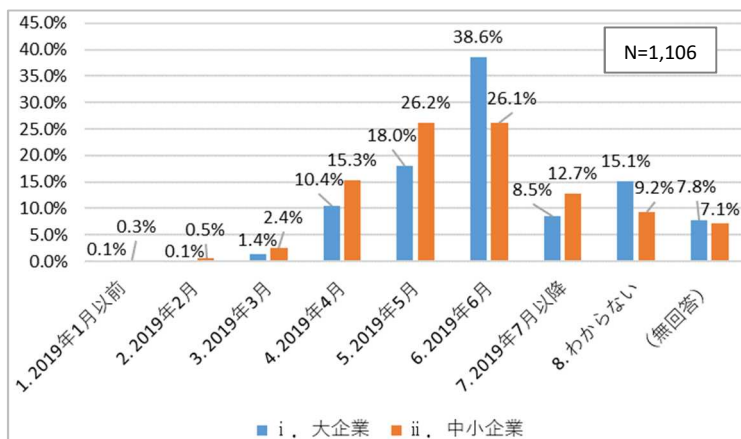
(4) 多くの学生が最初に内々定を得た時期

① 学生全体の動向

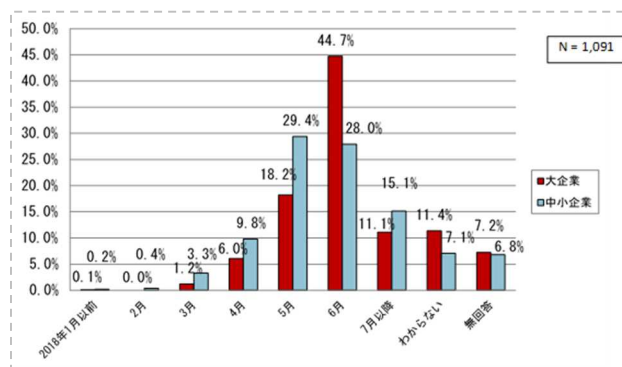
○多くの学生が企業から最初に内々定を得た時期を尋ねたところ、大企業については、「2019年6月」と回答した大学等が38.6%と最も多く、次いで「2019年5月」(18.0%)であった。また、中小企業については「2019年5月」(26.2%)、「2019年6月」(26.1%)でほぼ同じ割合であった。

○なお、昨年度の調査と比較すると、6月以降に学生が内々定を得たと回答した大学等の割合は、大企業が47.1%で8.7ポイント減、中小企業が38.8%で4.3ポイント減であった。

多くの学生が最初に内々定を得た時期はいつ頃ですか(当てはまるものを一つ選択)



[参考：昨年度調査]



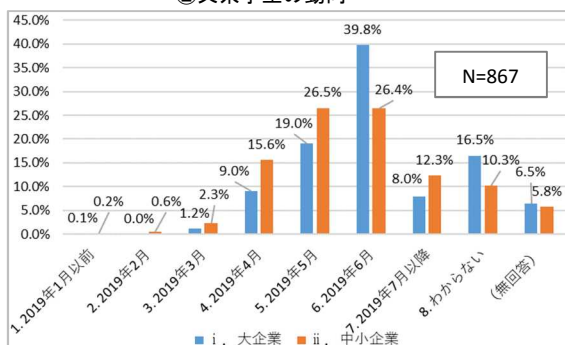
② 文系学生の動向、③ 理系学生の動向

○学生の文理別にみると、6月以降に学生は内々定を得たという回答した大学等は以下のとおり。

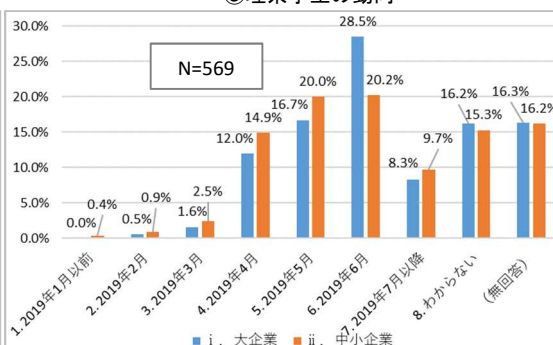
文系学生： 大企業 47.8% (▲10.3ポイント)
 中小企業 38.7% (▲5.0ポイント)
 理系学生： 大企業 36.8% (▲6.6ポイント)
 中小企業 29.9% (▲5.6ポイント)

多くの学生が最初に内々定を得た時期はいつ頃ですか(当てはまるものを一つ選択)

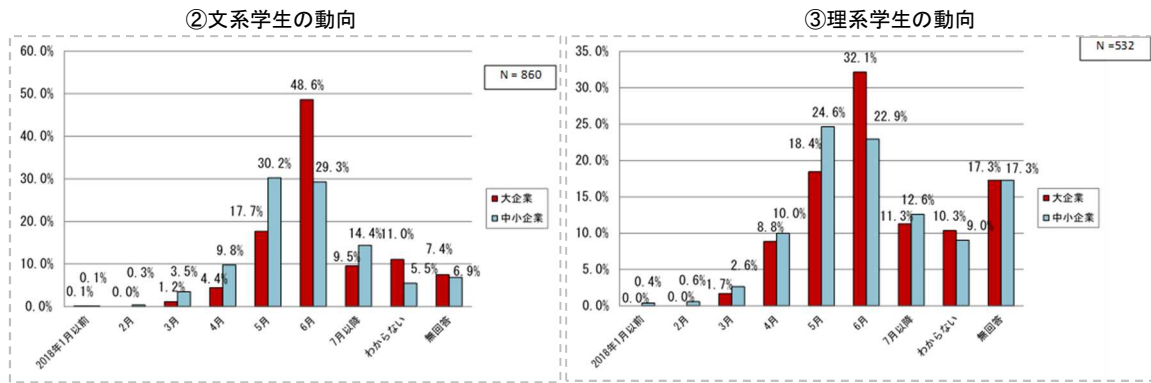
② 文系学生の動向



③ 理系学生の動向



[参考：昨年度調査]



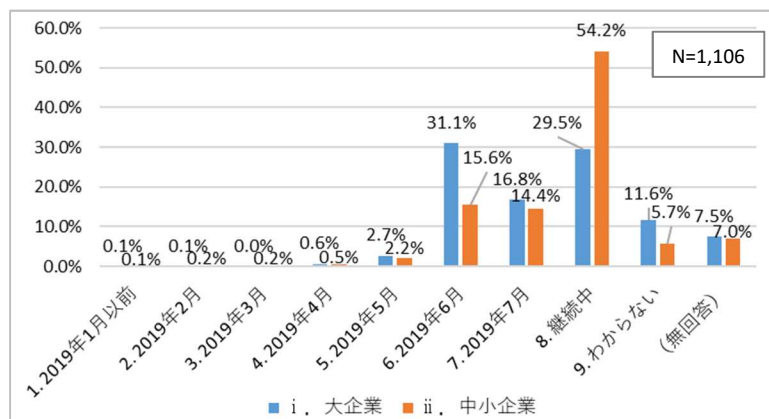
(5) 多くの学生が就職活動を終了した時期

①学生全体の動向

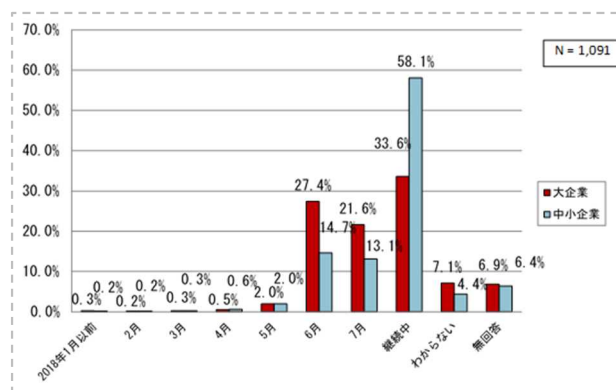
○多くの学生が就職活動を終了した時期について尋ねたところ、大企業については、「2019年6月」との回答が最も多く、次いで「継続中」との回答が多かった。中小企業については、「継続中」との回答が最も多く、次いで「2019年6月」との回答が多かった。

○昨年度と比較すると、継続中と回答した割合は大企業については4.1ポイント減少し、中小企業については3.9ポイント減少した。

多くの学生が就職活動を終了した時期はいつ頃ですか（当てはまるものを一つ選択）



[参考：昨年度調査]



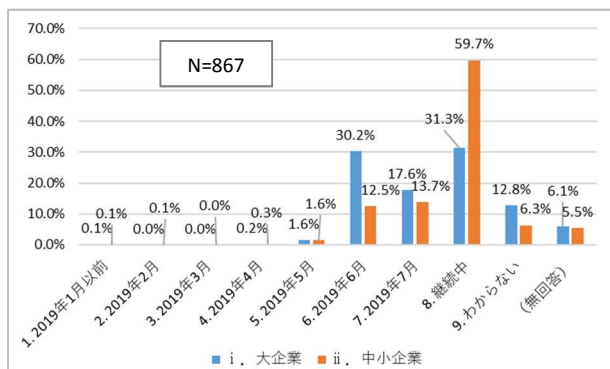
②文系学生の動向、③理系学生の動向

○文理別にみると、就職活動を継続中とした回答の割合は以下の通りであった。

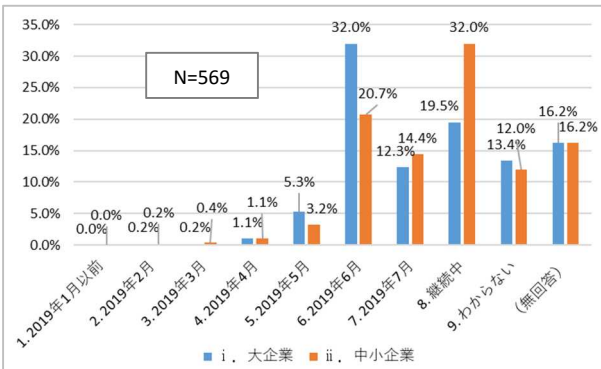
文系学生：大企業	31.3%	(▲4.4ポイント)
中小企業	59.7%	(▲4.6ポイント)
理系学生：大企業	19.5%	(▲4.0ポイント)
中小企業	32.0%	(▲4.5ポイント)

多くの学生が就職活動を終了した時期はいつ頃ですか（当てはまるものを一つ選択）

②文系学生の動向

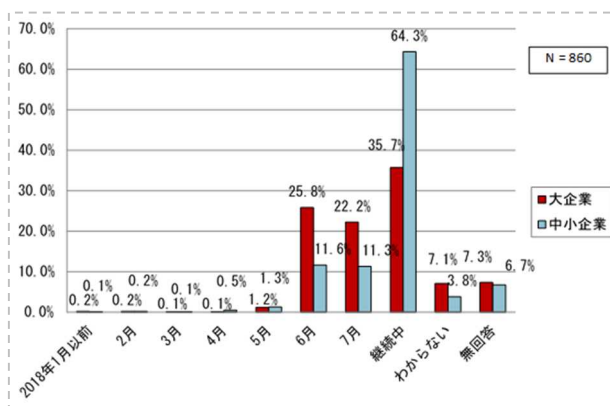


③理系学生の動向

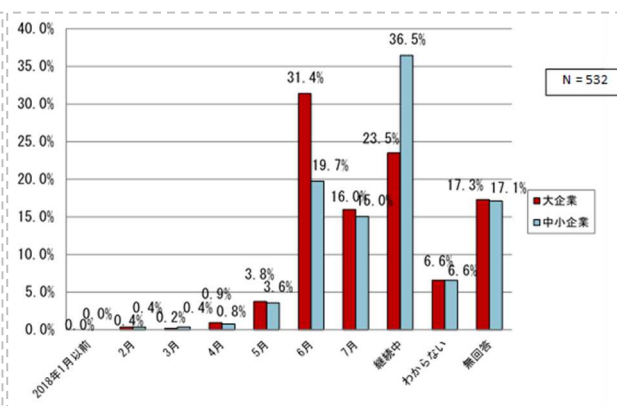


[参考：昨年度調査]

②文系学生の動向



③理系学生の動向



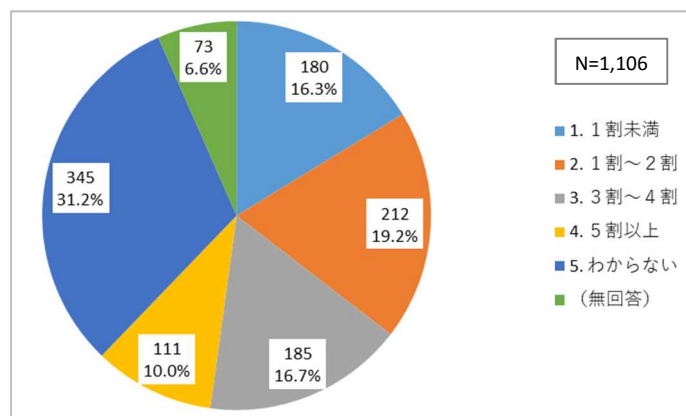
【夏季・秋季の採用選考活動について】

(6) 夏季・秋季から開始される採用選考活動の状況

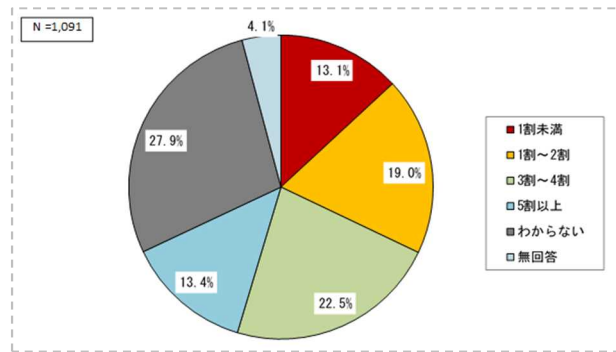
○本年度の就職・採用活動において、夏季・秋季から開始される採用選考活動を行う企業は全体のうちの程度の割合が尋ねたところ、「わからない」を除くと、「1割～2割」（19.2%）と回答した大学等が最も多く、次いで「3割～4割」（16.7%）、「1割未満」（16.3%）との結果であった。

本年度の就職・採用活動において、夏季・秋季から開始される採用選考活動を行う企業は全体のうちの程度の割合ですか

(当てはまるものを一つ選択)



[参考：昨年度調査]



IV. 就職・採用活動時期と学業等との関係について

【広報活動の開始時期が卒業・修了前年度の3月1日以降であることについて】

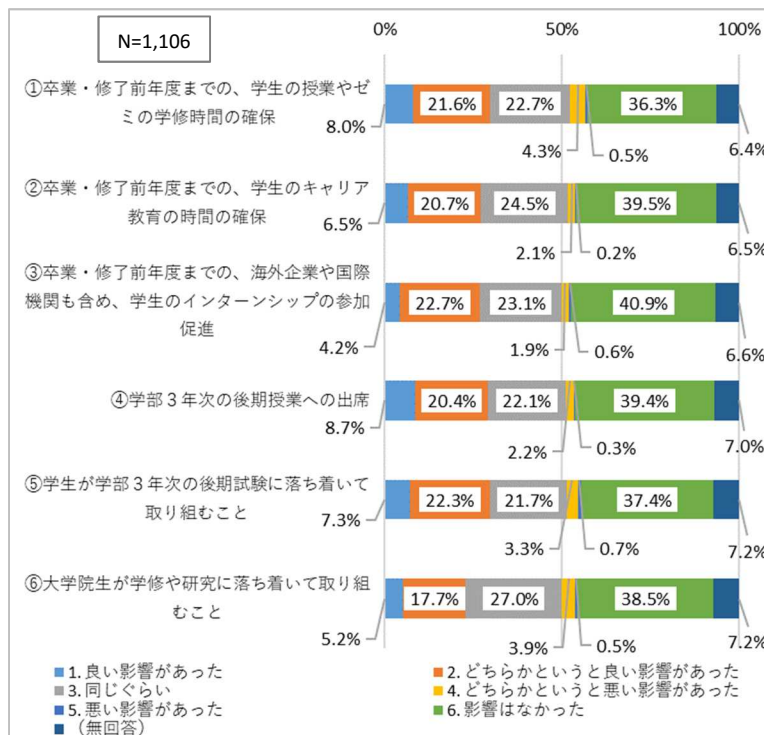
(1) 広報活動開始時期が卒業・修了前年度の3月1日以降であることの影響について

○広報活動開始時期が卒業・修了前年度の3月1日以降であることが続いていることによる影響を尋ねたところ、以下の項目で「良い影響があった」「どちらかというが良い影響があった」と回答した大学等の割合が高かった。

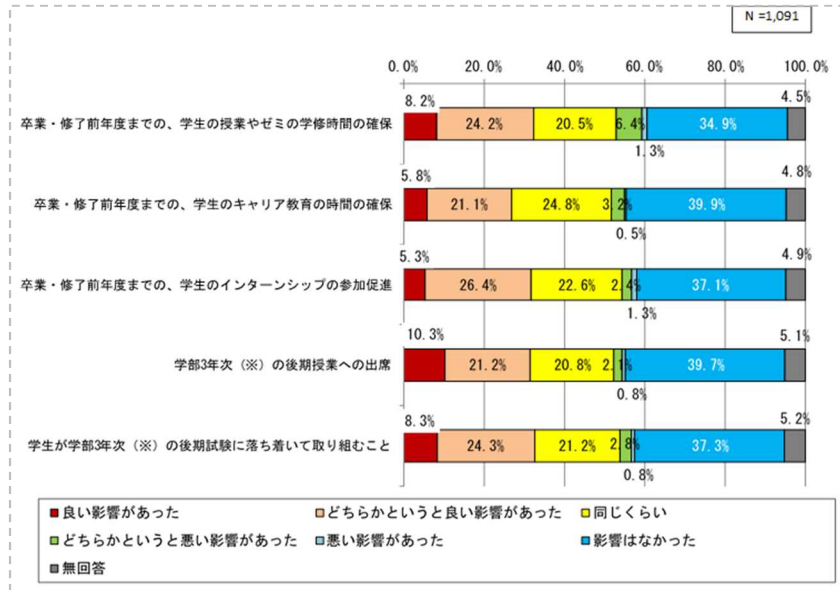
- ・卒業・修了前年度までの、学生の授業やゼミの学修時間の確保 29.6%
- ・学生が学部3年次の後期試験に落ち着いて取り組みこと 29.6%
- ・学部3年次の後期授業への出席 29.1%
- ・卒業・修了前年度までの、学生のキャリア教育の時間の確保 27.2%
- ・卒業・修了前年度までの、海外企業や国際機関も含め、学生のインターンシップの参加促進 26.9%

○昨年度と比較すると、良い影響があったとの回答が、悪い影響があったとの回答を大きく上回っていることは変わらない。

広報活動開始時期が卒業・修了前年度の3月1日以降であることについて、どのような影響がありましたか
(各項目当てはまるものを一つ選択)



[参考：昨年度調査]



【就職・採用活動の開始時期が昨年度と同じ時期に設定されたことについて】

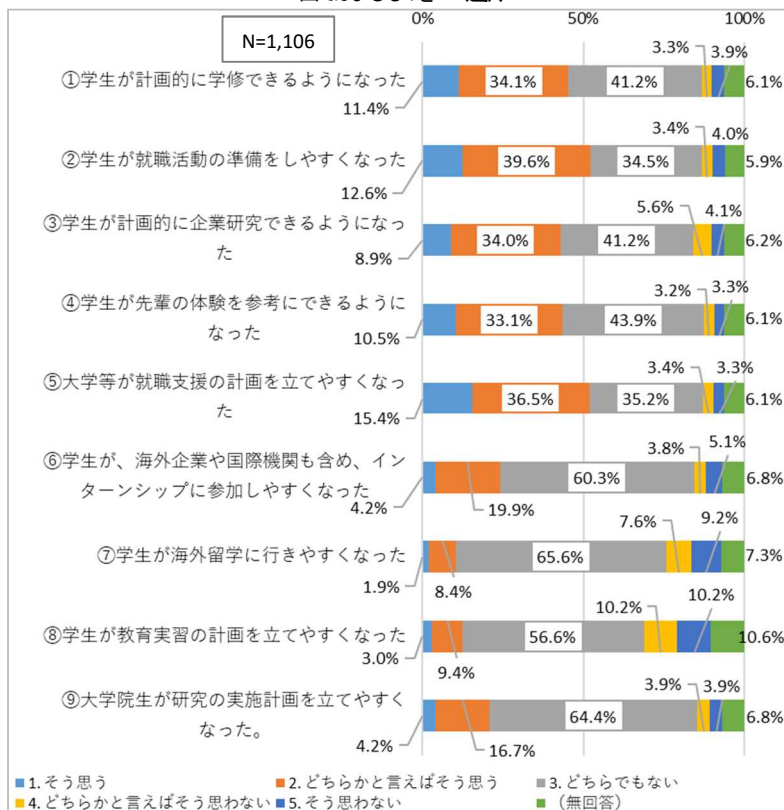
(2) 就職・採用活動の開始時期が昨年度と同じ日程に設定されたことによる良い影響と課題について

① 良い影響があったことについて

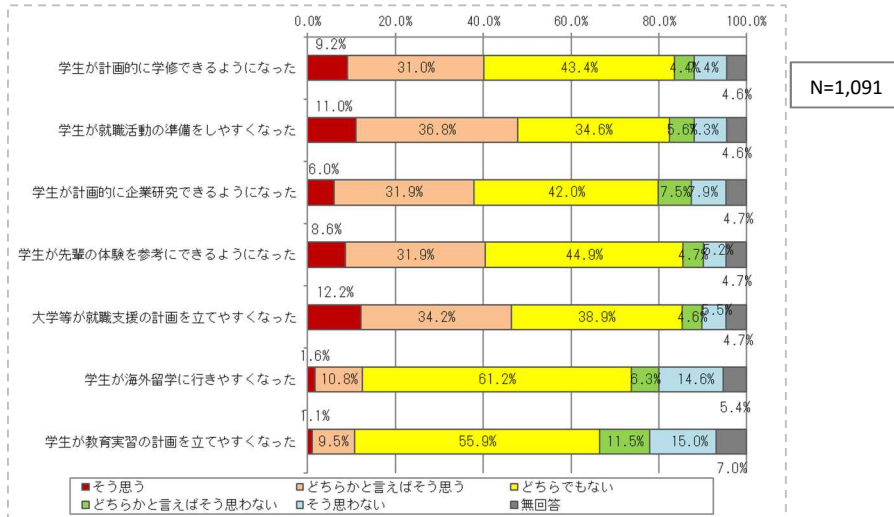
○ 就職・採用活動開始時期が、昨年度と同じ日程（広報活動3月、採用活動6月）に設定されたことについて、大学等への影響を尋ねたところ、以下の項目で「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した大学等の割合が高かった。

- ・ 学生が就職活動の準備をしやすくなった。(52.2%)
- ・ 大学等が就職支援の計画を立てやすくなった。(51.9%)
- ・ 学生が計画的に学修できるようになった。(45.5%)

就職・採用活動開始時期が、昨年度と同じ日程（広報活動3月、採用活動6月）に設定されたことについて、良い影響があったことは可ですか（当てはまるものを一つ選択）



[参考：昨年度調査]

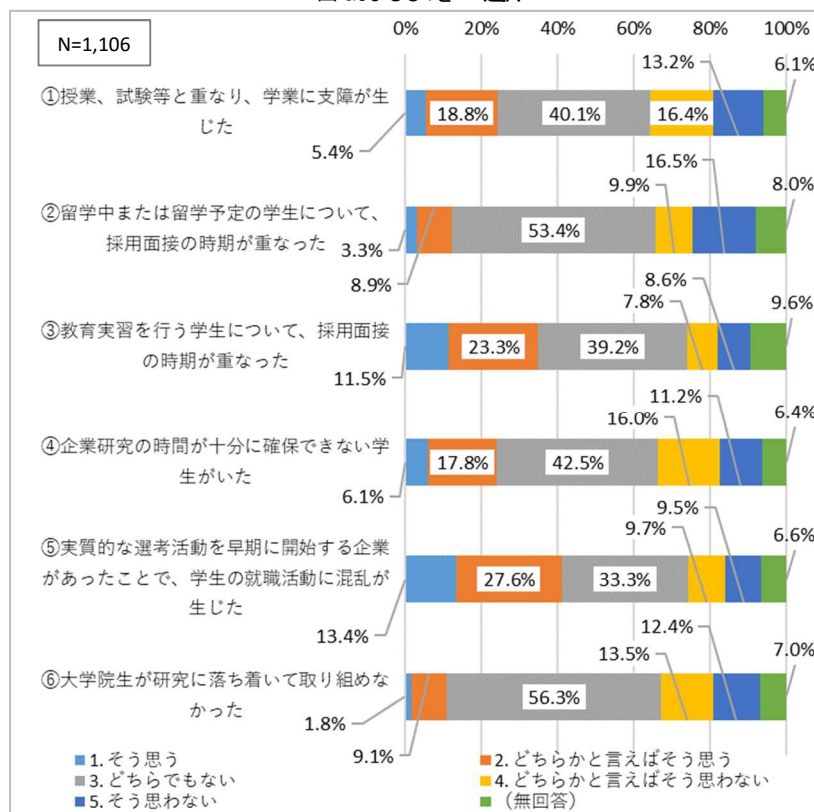


②課題となったことについて

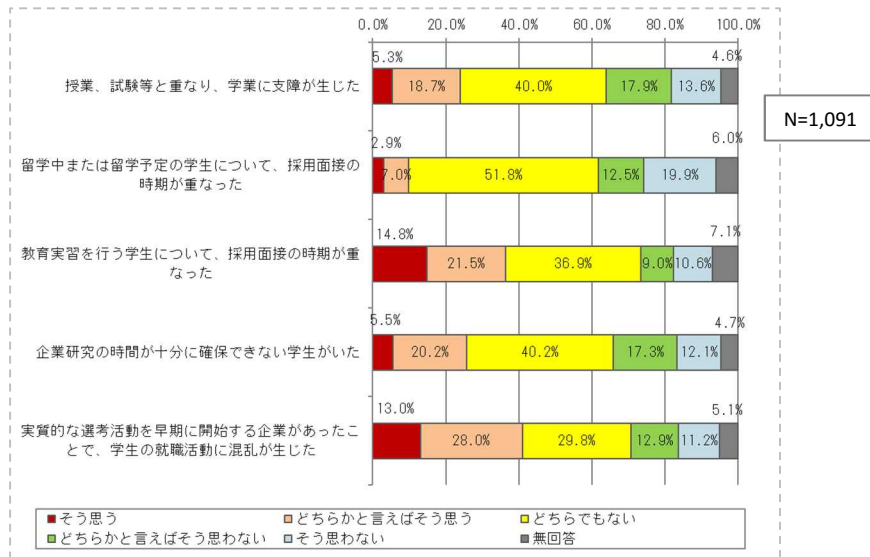
○就職・採用活動開始時期が、昨年度と同じ日程（広報活動3月、採用活動6月）に設定されたことについて、大学等として課題となったことを尋ねたところ、以下の項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した大学の割合が高かった。

- ・実質的な選考活動を早期に開始する企業があったことで、学生の就職活動に混乱が生じた（41.0%）
- ・教育実習を行う学生について、採用面接の時期が重なった（34.8%）
- ・授業、試験等と重なり、学業に支障が生じた（24.2%）

就職・採用活動開始時期が、昨年度と同じ日程（広報活動3月、採用活動6月）に設定されたことについて、課題となったことは何ですか（当てはまるものを一つ選択）



[参考：昨年度調査]



【留学経験者（留学中含む）への影響について】

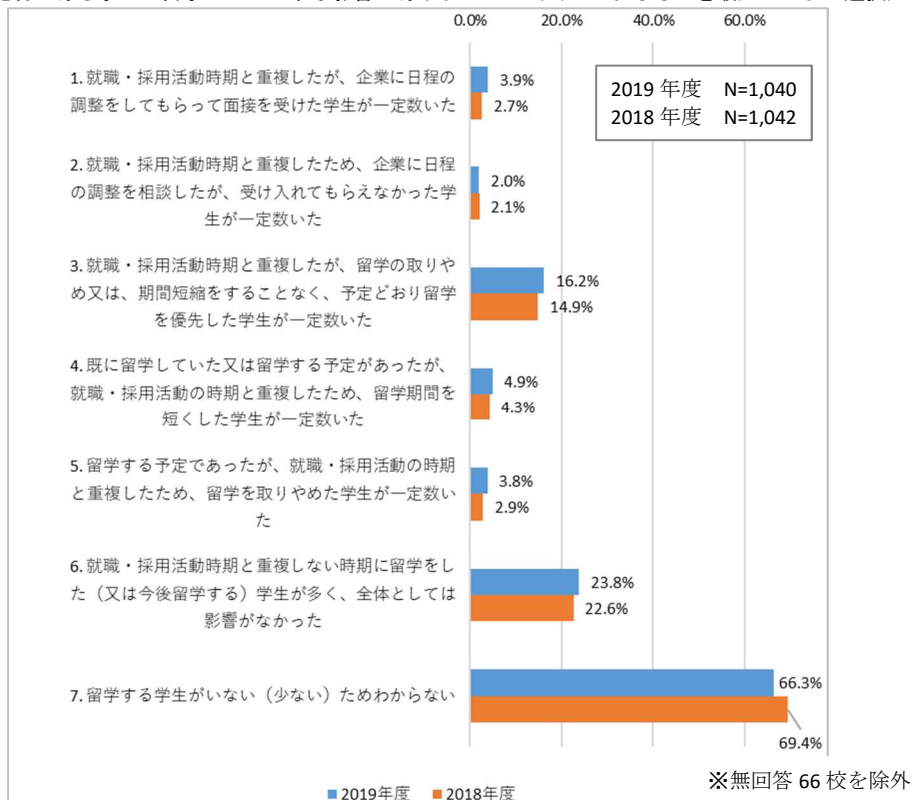
(3) 就職・採用活動と留学との関係について

○就職・採用活動開始時期が昨年度と同様の時期に設定されたことにより、本年度卒業・修了予定者である学生の留学にどのような影響があったかを尋ねたところ、「留学する学生がいない（少ない）ためわからない」との回答を除けば以下の回答が多かった。

- ・就職・採用活動時期と重複しない時期に留学をした（又は今後留学する）学生が多く、全体としては影響がなかった（23.8%）
- ・就職・採用活動時期と重複したが、留学の取りやめ又は、期間短縮をすることなく、予定どおり留学を優先した学生が一定数いた（16.2%）

○昨年度と比較すると全体的な傾向は変わらない。

就職・採用活動開始時期が昨年度と同様の時期、広報活動開始3月、採用選考活動開始6月に設定されたことにより、本年度卒業・修了予定者である学生の留学にどのような影響がありましたか（当てはまるものを最大三つまで選択）

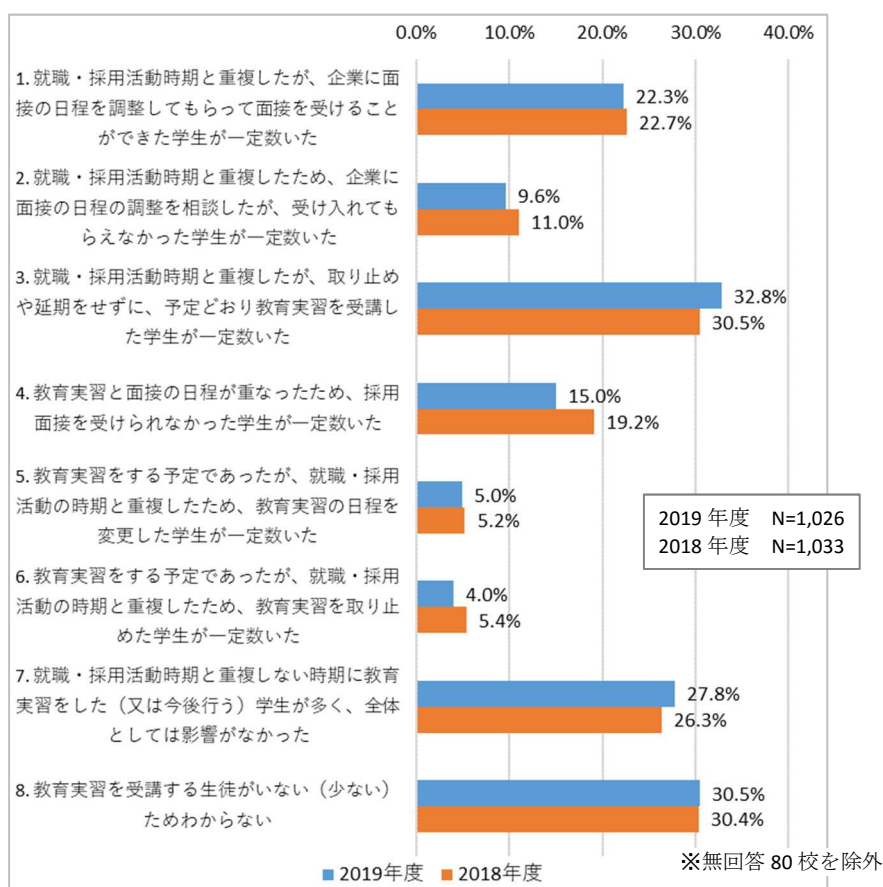


【教育実習受講者への影響について】

(4) 就職・採用活動と教育実習との関係について

- 就職・採用活動開始時期が昨年度と同様の時期に設定されたことにより、本年度卒業・修了予定者である学生の教育実習にどのような影響があったか尋ねたところ、「就職・採用活動時期と重複したが、取り止めや延期をせずに、予定どおり教育実習を受講した学生が一定数いた」と回答した大学等が32.8%と最も多く、次いで「教育実習を受講する生徒が少ない（少ない）ためわからない」（30.5%）、「就職・採用活動時期と重複しない時期に教育実習をした（又は今後行う）学生が多く、全体としては影響がなかった」（27.8%）が多かった。
- なお、昨年度と比較すると「教育実習と面接の日程が重なったため、採用面接を受けられなかった学生が一定数いた」との回答は4.2ポイント減少した。

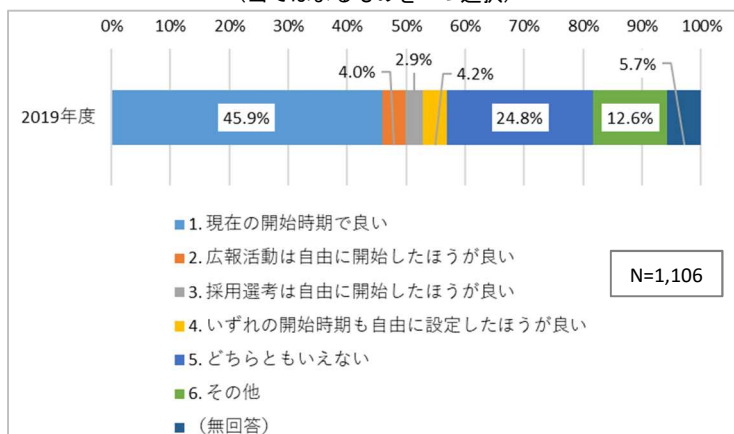
就職・採用活動開始時期が昨年度と同様の時期、広報活動開始3月、採用選考活動開始6月に設定されたことにより、本年度卒業・修了予定者である学生の教育実習にどのような影響がありましたか（当てはまるものを最大三つ選択）



(5) 就職・採用活動開始時期が設定されていることについて

- 就職・採用活動開始時期（広報活動3月、採用選考活動6月）が設定されていることについてどう考えるか尋ねたところ、「現在の開始時期が良い」との回答が45.9%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が24.8%であった。

就職・採用活動の開始時期（広報活動3月、採用選考活動6月）が設定されていることについてどう考えますか
（当てはまるものを一つ選択）



V. 就職・採用活動における企業側の学業に対する配慮について

【学生に対する企業の配慮】

(1) 企業側の学生への配慮について

○本年度の就職・採用活動について、企業側が学生に対する配慮をしていたか尋ねたところ、以下の項目については、配慮していると回答した大学等が配慮していないと回答した大学等より多かった。

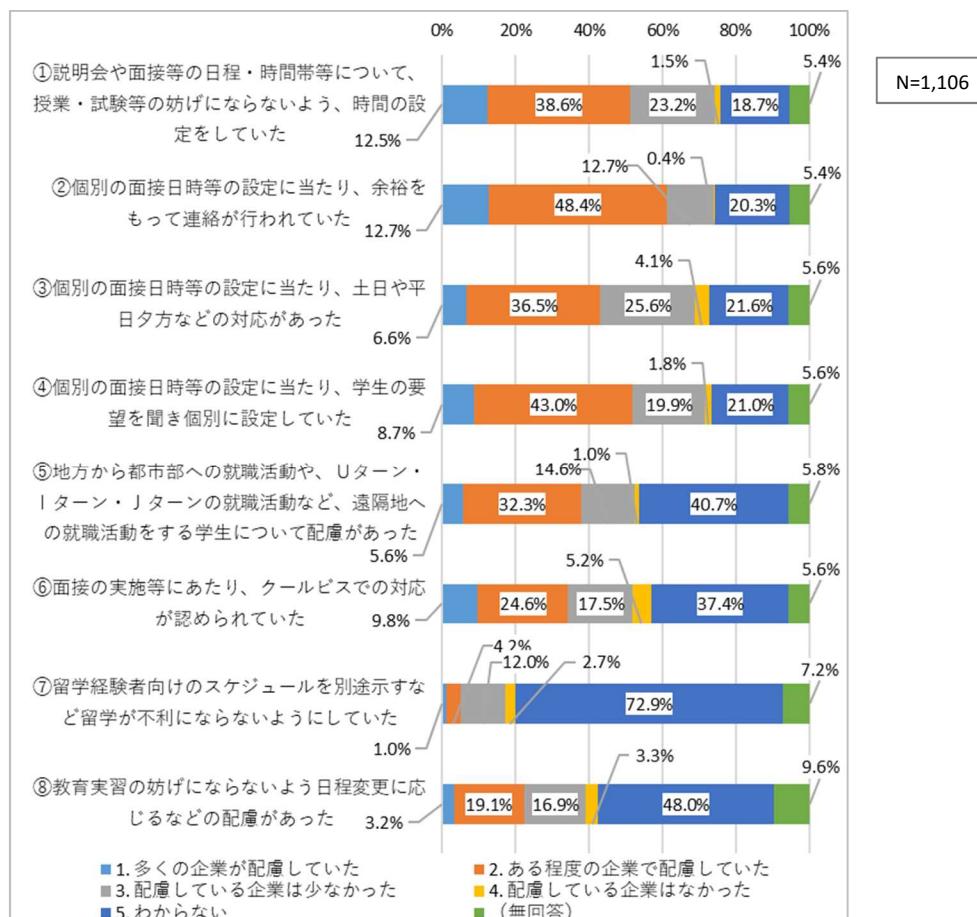
・個別の面接日時等の設定に当たり、余裕をもって連絡が行われた。など7項目

「配慮している」（61.1%）「配慮していない」（13.1%）

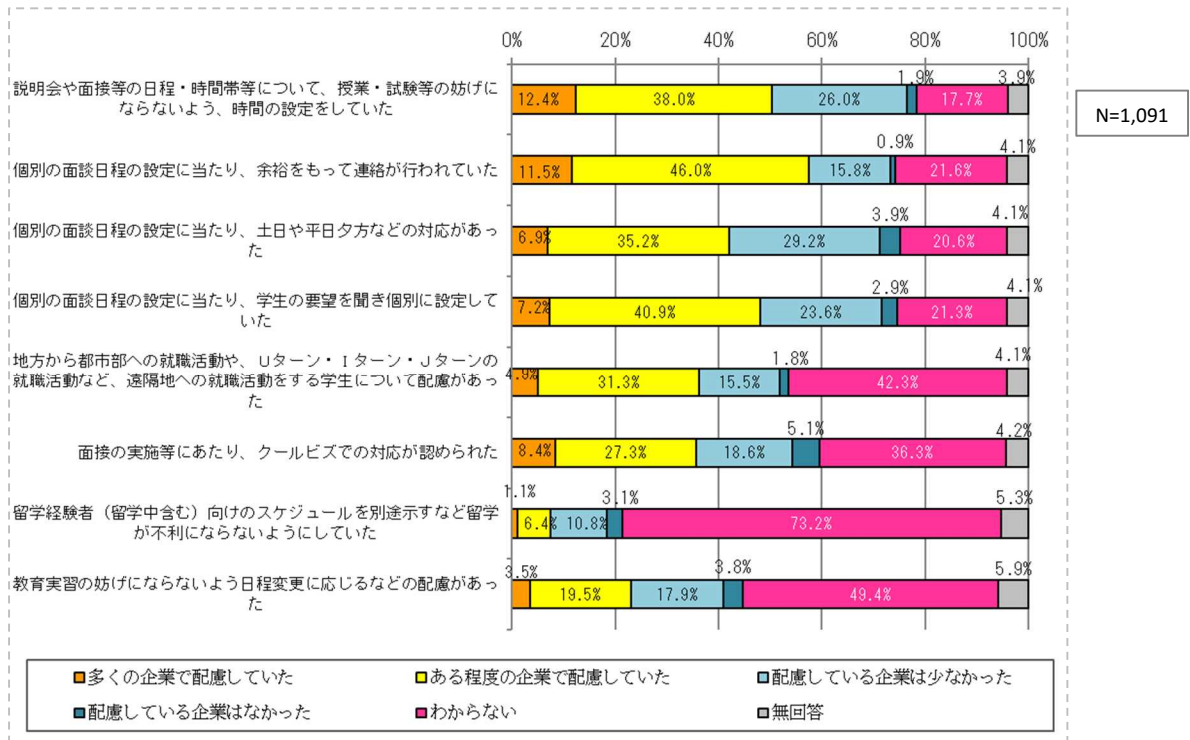
※配慮しているとは「多くの企業で配慮していた」、「ある程度の企業で配慮していた」と回答した大学等の合計。

※配慮していないとは「配慮している企業は少なかった」、「配慮している企業がなかった」と回答した大学等の合計。

本年度の就職・採用活動について、企業側は学生に配慮をしていましたか（各項目当てはまるものを一つ選択）



[参考：昨年度調査]

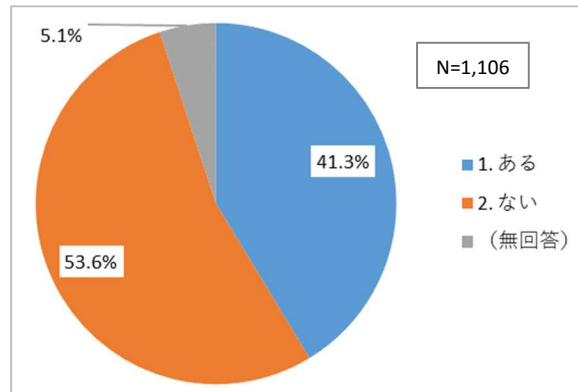


【授業、ゼミ、実験と面接が重なった際の企業の対応】

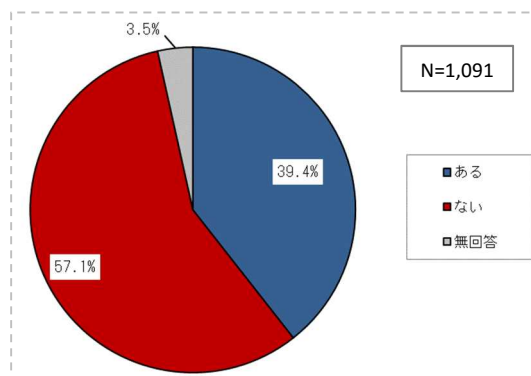
(2) 学生からの相談有無について

○学生から授業、ゼミ、実験などの時間と面接等の日程等が重なったため、企業に配慮してほしい旨の相談を受けたことはあるかを尋ねたところ、「ある」と回答した大学の割合は41.3%であった。

学生から授業、ゼミ、実験などの時間と面接等の日程等と重なったため、企業に配慮してほしい旨の相談を受けたことはありましたか（当てはまるものを一つ選択）



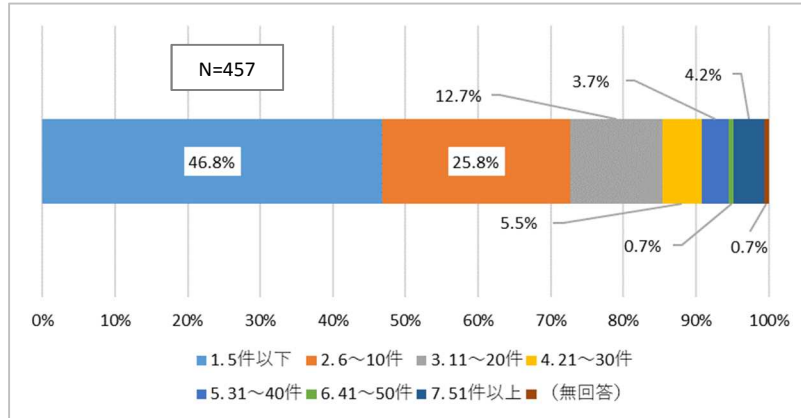
[参考：昨年度調査]



(3) 学生からの相談件数について

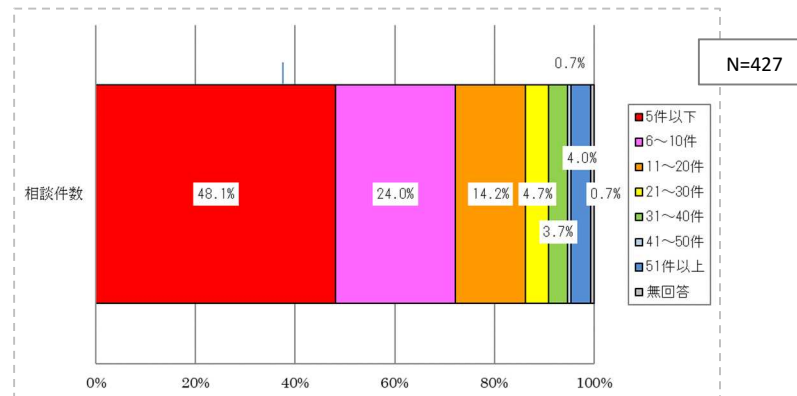
○相談を受けたことがあると回答した大学等（457校）に対し、相談件数を訪ねたところ、5件以下（46.8%）と回答した大学等が最も多く、次いで「6～10件」（25.8%）、「11～20件」（12.7%）であった。

学生からの相談件数は何件程度でしたか（当てはまるものを一つ選択）



※相談を受けたことがあると回答した457校に質問

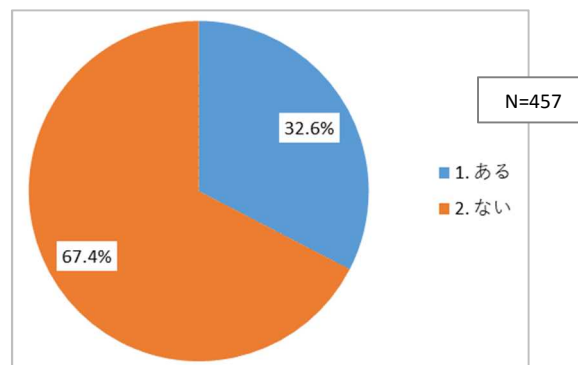
[参考：昨年度調査]



(4) 大学から企業への相談について

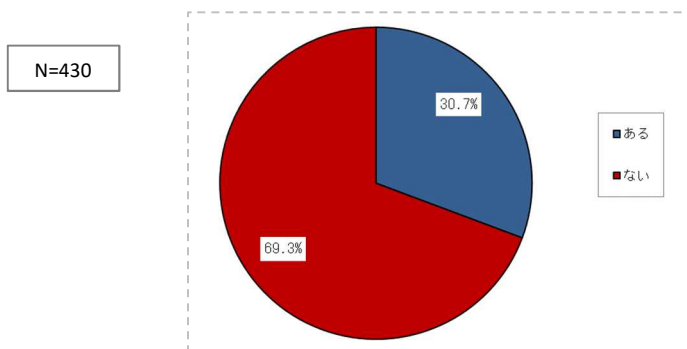
○相談を受けたことがあると回答した大学等（457校）に対し、学生の相談を受け、大学（就職支援担当部署やキャリアセンター）から企業に相談をしたことはあるかを尋ねたところ、「ある」と回答した大学等の割合は32.6%であった。

学生の相談を受け、大学（就職支援担当部署やキャリアセンター）から企業に相談をしたことはありましたか（当てはまるものを一つ選択）



※相談を受けたことがあると回答した457校に質問

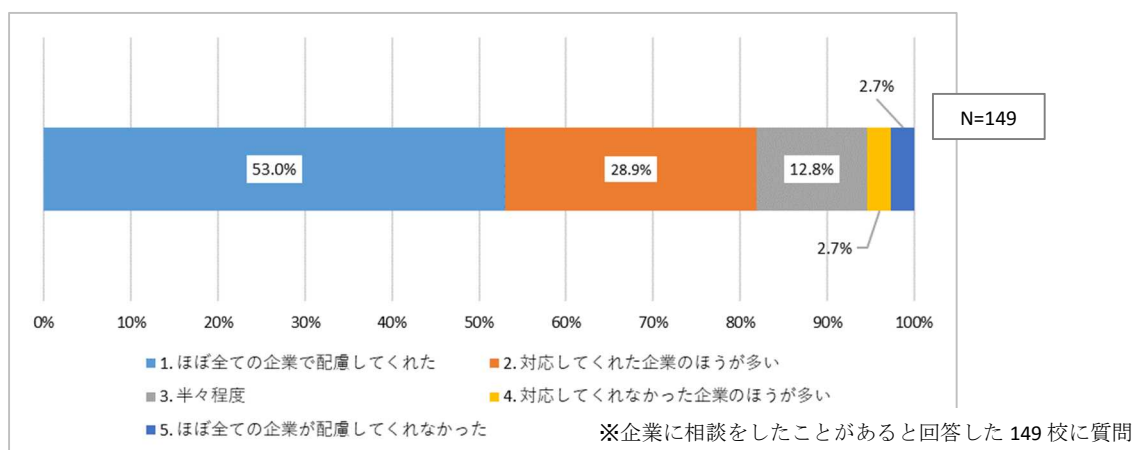
[参考：昨年度調査]



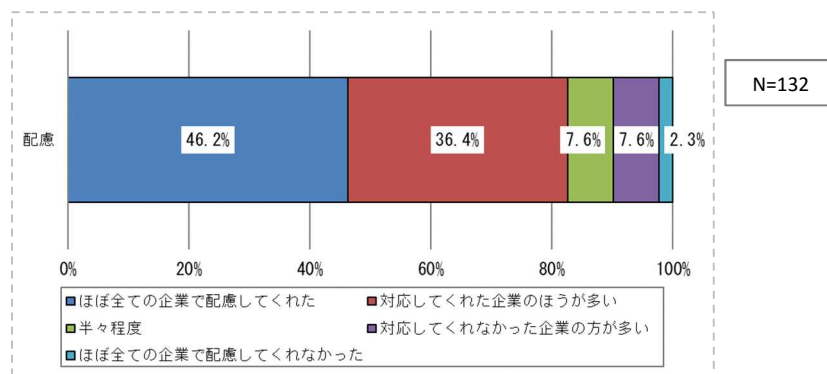
(5) 大学等から企業への相談の結果について

○大学等から企業に相談したことがあると回答した大学等（149校）に対し、企業に相談した結果、企業は配慮してくれたかを尋ねたところ、「ほぼすべての企業で配慮してくれた」「対応してくれた企業のほうが多い」と回答した大学等の合計は81.9%であった。

企業に相談した結果、企業は配慮してくれましたか（当てはまるものを一つ選択）



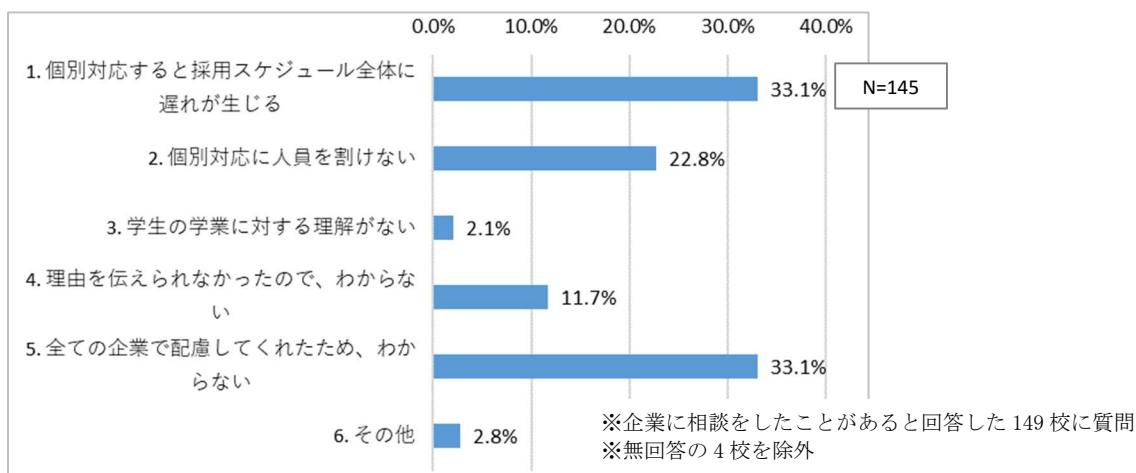
[参考：昨年度調査]



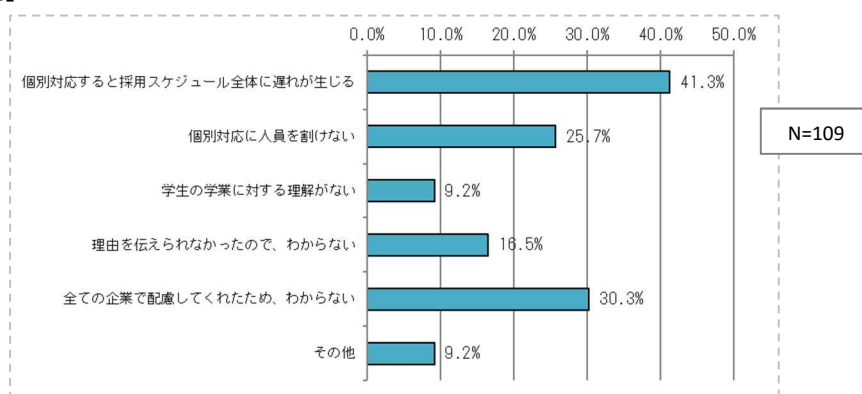
(6) 企業が配慮しなかった理由について

○大学から企業に相談したことがあると回答した大学等（149校）に対し、企業が配慮しなかった理由を尋ねたところ、「個別対応すると採用スケジュール全体に遅れが生じる」（33.1%）、「全ての企業で配慮してくれたため、わからない」（33.1%）と回答した大学等が最も多く、次いで「個別対応に人員を割けない」（22.8%）であった。

企業が配慮してくれなかった理由はどのようなものでしたか（当てはまるものを全て選択）



[参考：昨年度調査]

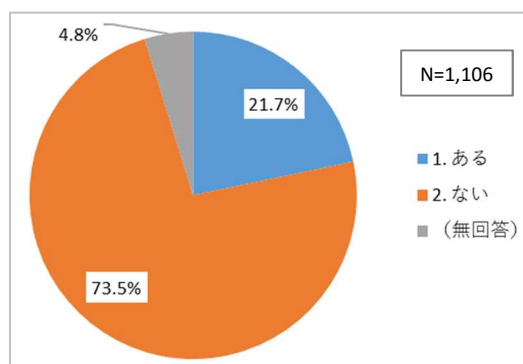


【留学時期や教育実習と面接が重なった際の企業の対応】

(7) 留学時期や教育実習と就職活動時期が重なってしまった際の配慮に関する学生からの相談の有無について

○留学時期や教育実習と就職活動時期が重なってしまったため、面接等を別日程にする等の配慮をしてほしい旨、学生から相談を受けたことはあるかを尋ねたところ、「ある」と回答した大学等は21.7%であった。

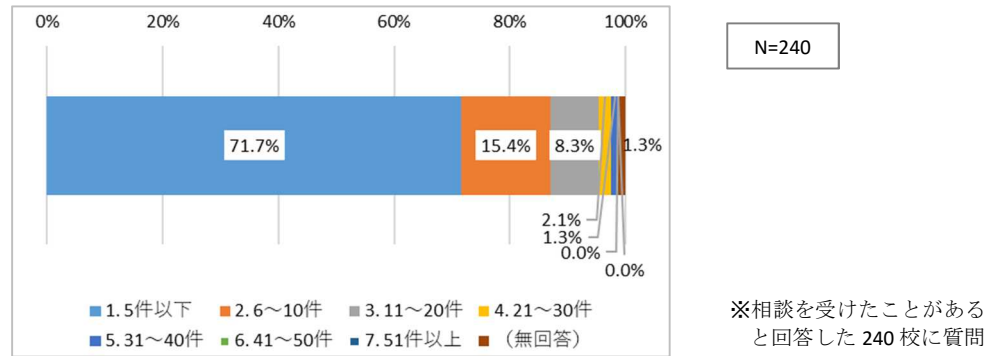
留学時期や教育実習と就職活動時期が重なってしまったため、面接等を別日程にする等の配慮をしてほしい旨、学生から相談を受けたことはありましたか（当てはまるものを一つ選択）



(8) 学生からの相談件数について

○相談を受けたことがあると回答した大学等（240校）に対し、学生からの相談件数を尋ねたところ、「5件以下」と回答した大学等が71.7%と最も多く、次いで「6～10件」（15.4%）であった。

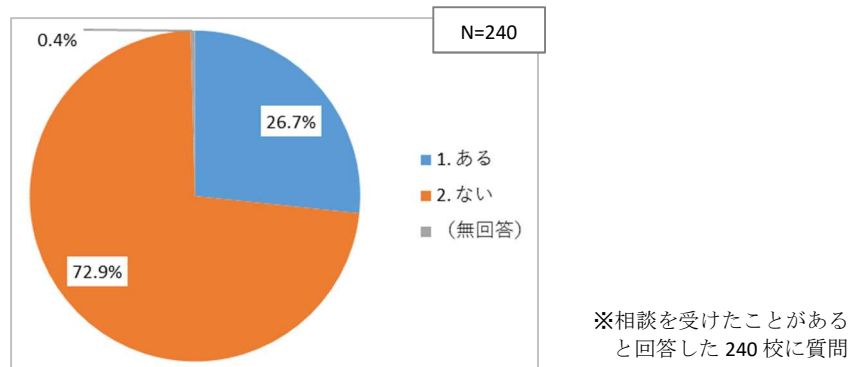
学生からの相談件数は何件程度でしたか（当てはまるものを一つ選択）



（9）学生からの相談を受けての大学等から企業への相談の有無について

○相談を受けたことがあると回答した大学等（240校）に対し、大学（就職支援担当部署やキャリアセンター）から企業に相談をしたことはあるかを尋ねたところ、「ある」と回答した大学等は26.7%であった。

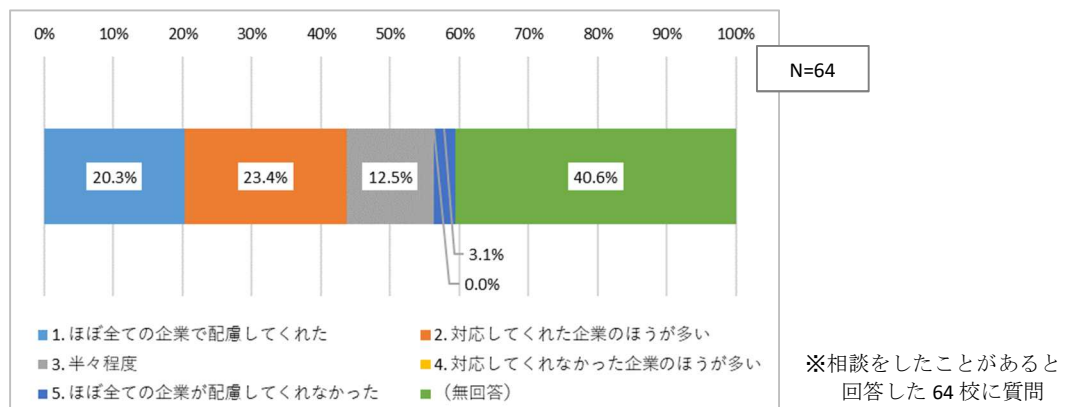
学生の相談を受け、大学（就職支援担当部署やキャリアセンター）から企業に相談をしたことはありましたか（当てはまるものを一つ選択）



（10）大学等から企業への相談結果について

○大学等から企業に相談したことがあると回答した大学等（64校）に対し、企業に相談をした結果、企業は配慮してくれたかを尋ねたところ、「ほぼ全ての企業が配慮してくれた」20.3%（13件）、「対応してくれた企業のほうが多い」23.4%（15件）、「半々程度」12.5%（8件）、「対応してくれなかった企業のほうが多い」0%（0件）、「ほぼ全ての企業が配慮してくれなかった」3.1%（2件）であった。

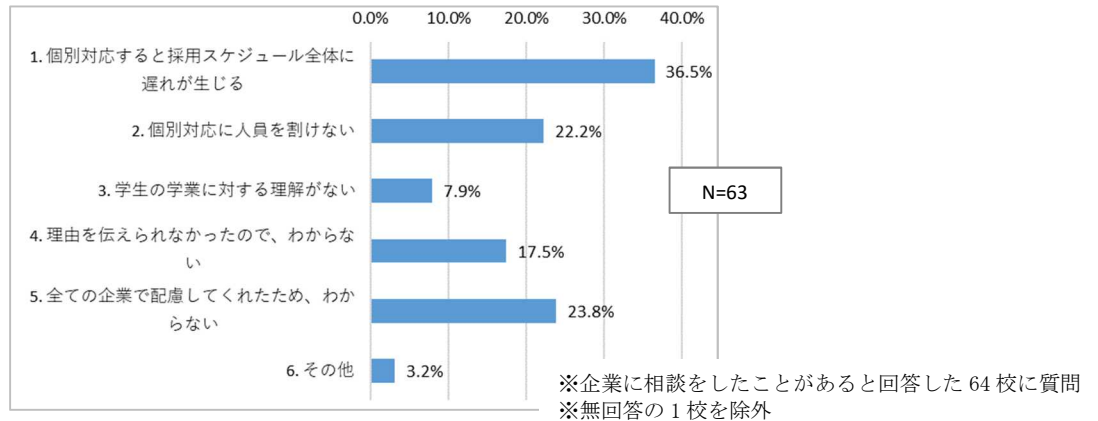
企業は配慮してくれましたか（当てはまるものを一つ選択）



(11) 大学等から企業への相談に配慮してくれなかった理由について

○大学から企業に相談したことがあると回答した大学等（64校）に対し、配慮してくれなかった企業の理由はどのようなものかを尋ねたところ、「個別対応すると採用スケジュール全体に遅れが生じる」36.5%（23件）、「個別対応に人員を割けない」22.2%（14件）、「学生の学業に対する理解がない」7.9%（5件）、「理由を伝えられなかったため、わからない」17.5%（11件）、「全ての企業で配慮してくれたため、わからない」23.8%（15件）、「その他」3.2%（2件）であった。

配慮してくれなかった企業の理由はどのようなものでしたか（当てはまるものを全て選択）



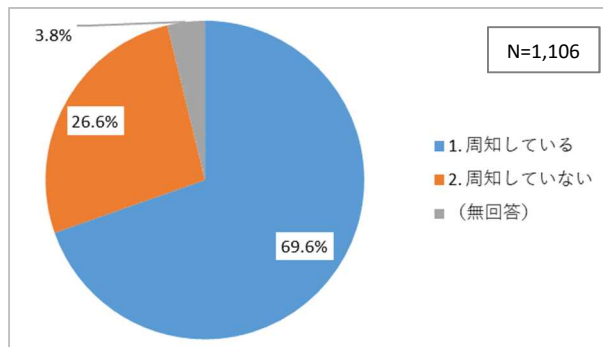
VI. 就職・採用活動におけるハラスメント的な行為について

【ハラスメント的な行為全般への対応について】

(1) 大学へ相談する旨の周知について

○就職・採用活動においてハラスメント的な行為を受けた場合、大学へ相談するよう周知しているかを尋ねたところ、「周知している」とした大学等が69.6%であった。

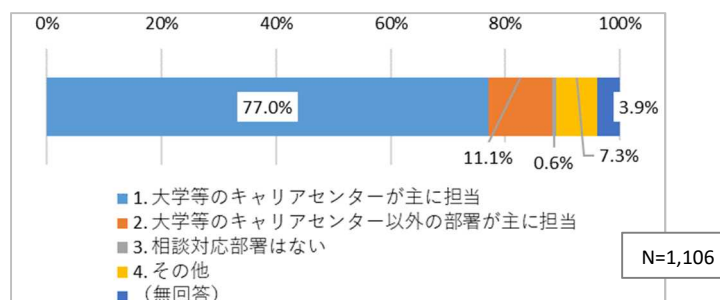
学生に対して、就職・採用活動においてハラスメント的な行為を受けた場合、大学へ相談するよう周知していますか（当てはまるものを一つ選択）



(2) 相談に対する体制について

○学生からの相談に対する大学等の相談体制はどのようになっているかを尋ねたところ、「大学等のキャリアセンター（就職支援担当）が主に対応」と回答した大学等が77.0%であった。

学生からの相談に対する大学等の相談体制はどのようになっていますか（当てはまるものを一つ選択）

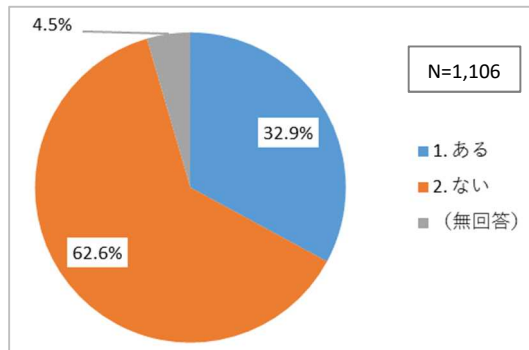


(3) 「オワハラ」の相談有無について

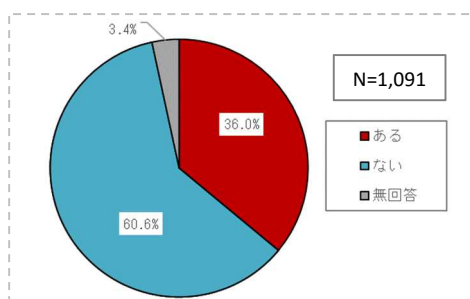
○企業から学生の意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為について、相談を受けたことはあるかを尋ねたところ、「ある」と回答した大学等が32.9%であった。

○昨年度調査と比べると、3.1ポイント減少している。

本年度の就職・採用活動において、企業から学生の意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為について、相談を受けたことはありましたか（当てはまるものを一つ選択）



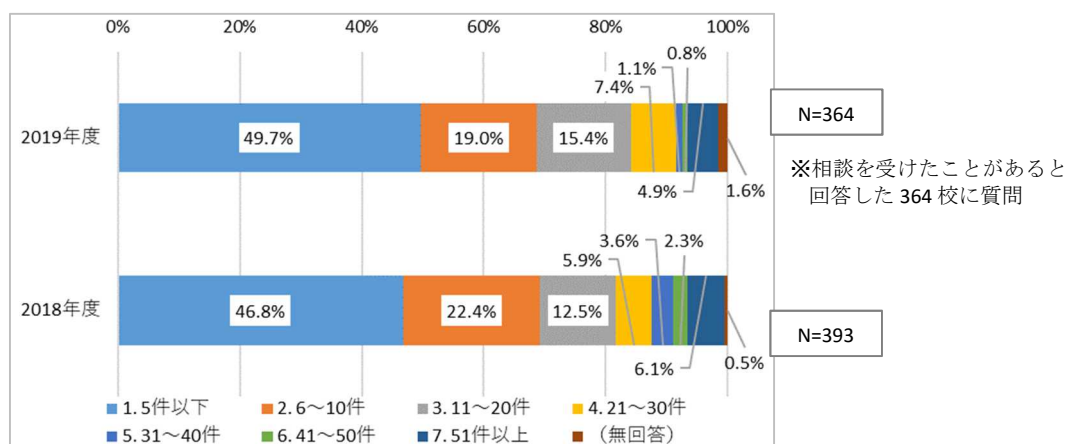
[参考：昨年度調査]



(4) 「オワハラ」の相談件数について

○相談を受けたことがあると回答した大学等(364校)に対し、その相談件数を尋ねたところ、「5件以下」と回答した大学等が49.7%と最も多く、次いで「6～10件」(19.0%)、「11～20件」(15.4%)であった。

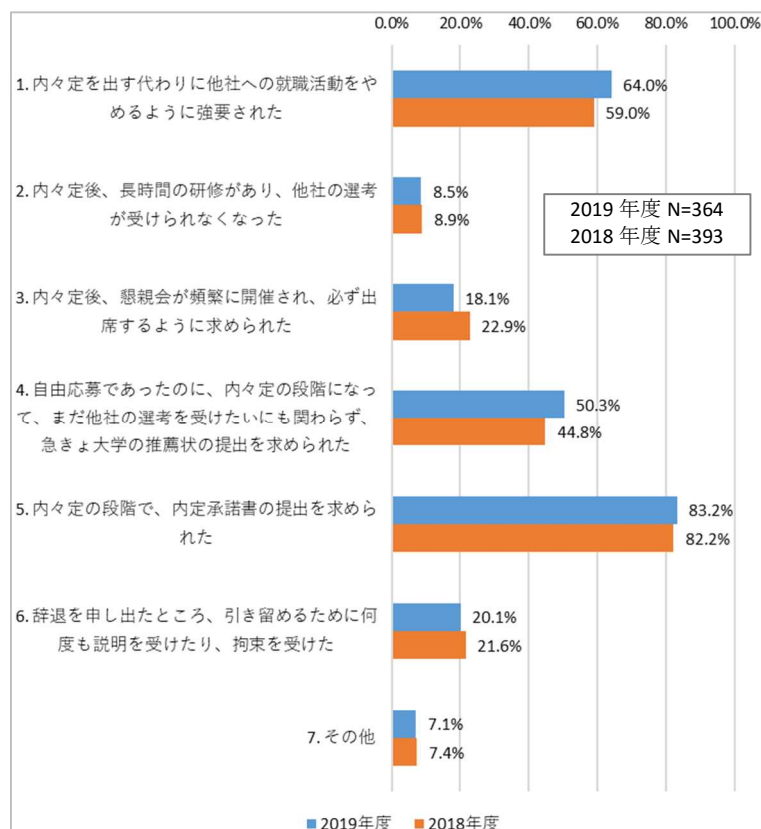
本年度の相談件数はおおよそ何件程度でしたか（当てはまるものを一つ選択）



(5) 「オワハラ」の相談内容について

○相談を受けたことがあると回答した大学等(364校)に対し、どのような「オワハラ」について相談を受けたかを尋ねたところ、「内々定の段階で、内定承諾書の提出を求められた（内定承諾書を提出しない場合は、内々定を辞退したものとみなすと言われたなど）」と回答した大学等が83.2%と最も多く、次いで「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された」(64.0%)であった。

どのようなオワハラについて相談を受けましたか（当てはまるものを全て選択）

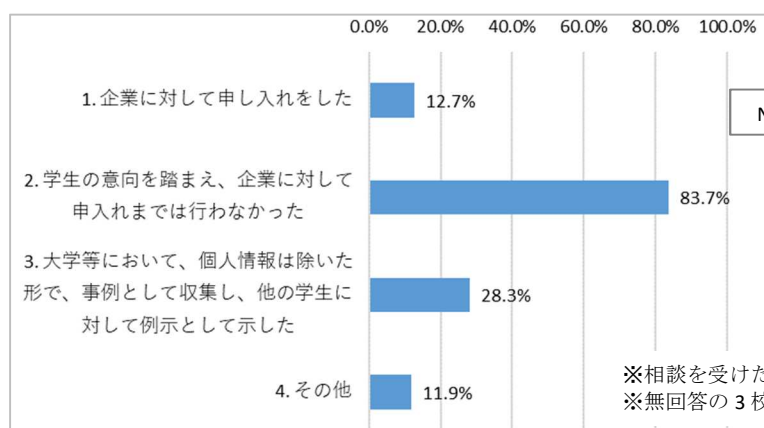


※相談を受けたことがあると回答した 364 校に質問

(6) 「オワハラ」の相談に対する大学等での対応について

○相談を受けたことがあると回答した大学等（364校）に対し、相談を受けてどのように対応したかを尋ねたところ、「学生の意向を踏まえ、企業に対して申入れまでは行わなかった」との回答した大学等が83.7%と最も多かった。

相談を受けてどのように対応しましたか（当てはまるものを全て選択）



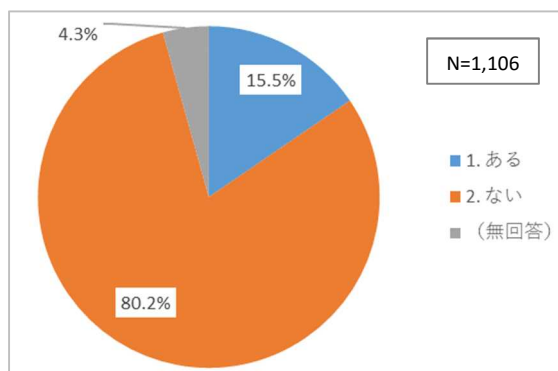
※相談を受けたことがあると回答した 364 校に質問
※無回答の 3 校を除外

(7) 内々定の辞退による企業からのクレームの有無について

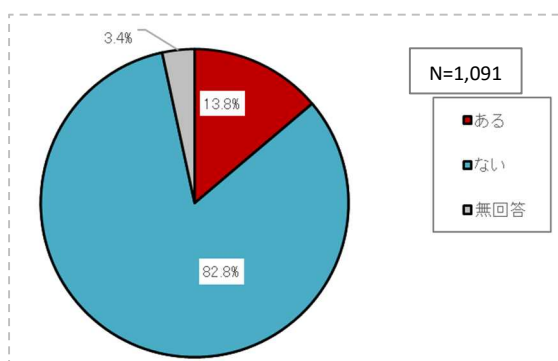
○学生が内々定を辞退したことで、企業からクレームを受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」との回答した大学等は、15.5%だった。

○昨年度調査と比較して「ある」との回答が1.7%増加している。

学生が内々定を辞退したことで、企業からクレームを受けたことはありますか（当てはまるものを一つ選択）



[参考：昨年度調査]

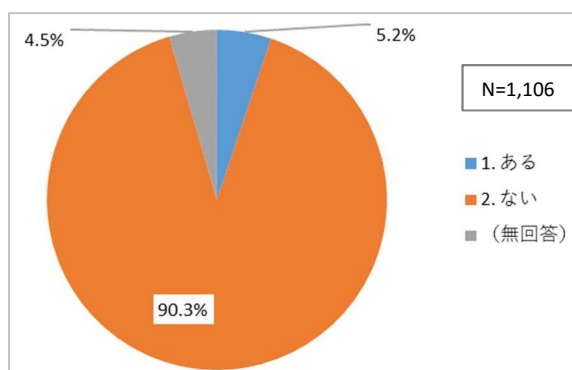


【就職・採用活動におけるセクシュアルハラスメント行為】

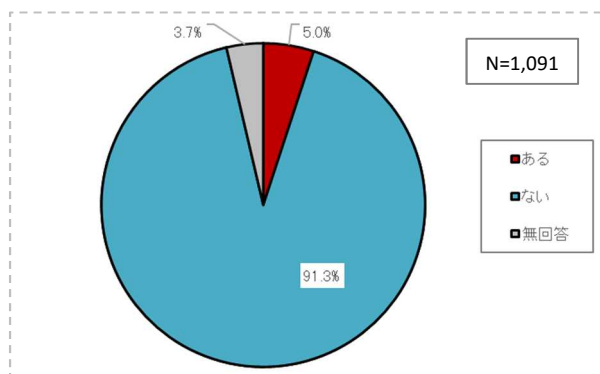
(8) 「セクハラ」に関する相談の有無について

○本年度の就職・採用活動において、学生からセクシュアルハラスメントのような行為について、相談を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」と回答した大学等はが5.2%だった。

本年度の就職・採用活動において、学生からセクシュアルハラスメントのような行為について、相談を受けたことはありましたか（当てはまるものを一つ選択）



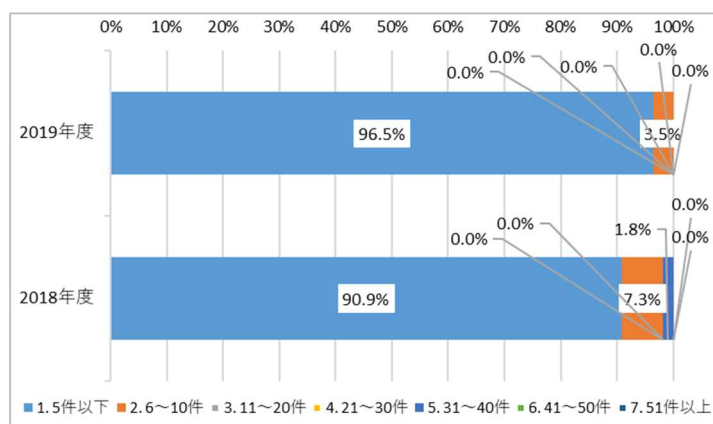
[参考：昨年度調査]



(9) 「セクハラ」に関する相談件数について

○相談があったと回答した大学等（57校）に対して、その件数について尋ねたところ、「5件以下」が最も多く、96.5%であった。

本年度の相談件数はおおよそ何件程度でしたか（当てはまるものを一つ選択）



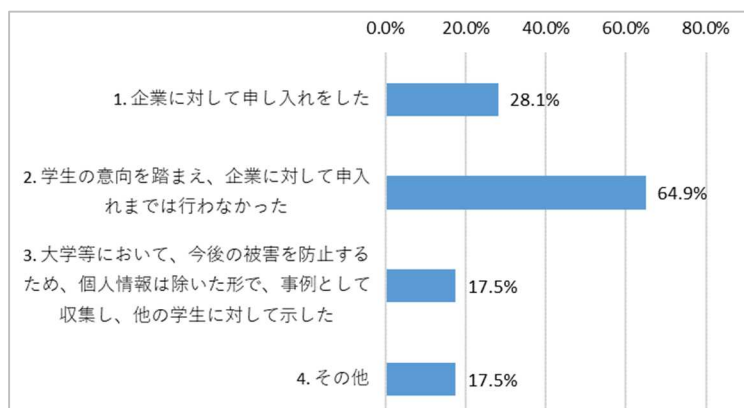
N=57
※相談を受けたことがあると回答した57校に質問

N=55

(11) 「セクハラ」に関する相談を受けての対応について

○相談を受けての対応としては、「学生の意向を踏まえ、企業に対して申入れまでは行わなかった」との回答が64.9%で、最も多かった。

相談を受けてどのように対応しましたか（当てはまるものを全て選択）



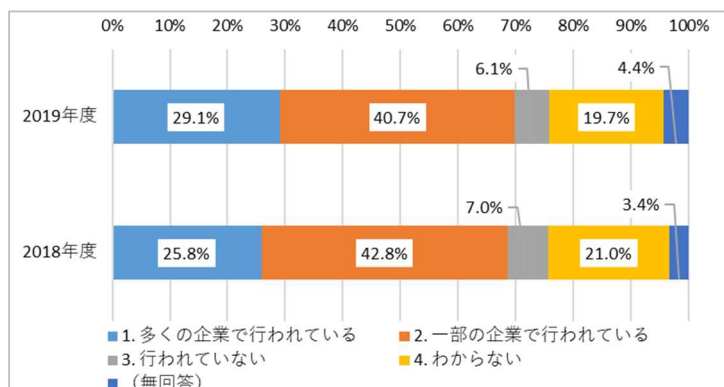
N=57
※相談を受けたことがあると回答した57校に質問

VII. 企業の採用選考活動における学生の評価について

(1) 学業成果を表す書類などを活用した面接の有無について

○学業成果を表す書類（例えば、成績証明書や履修履歴等）などを活用した面接が行われていると思うかを尋ねたところ、「行われている」と回答した大学等は69.8%であった。
○昨年度と比べると1.2ポイント増加した。

学業成果を表す書類（例えば、成績証明書や履修履歴等）などを活用した面接が行われていると思いますか（当てはまるものを一つ選択）



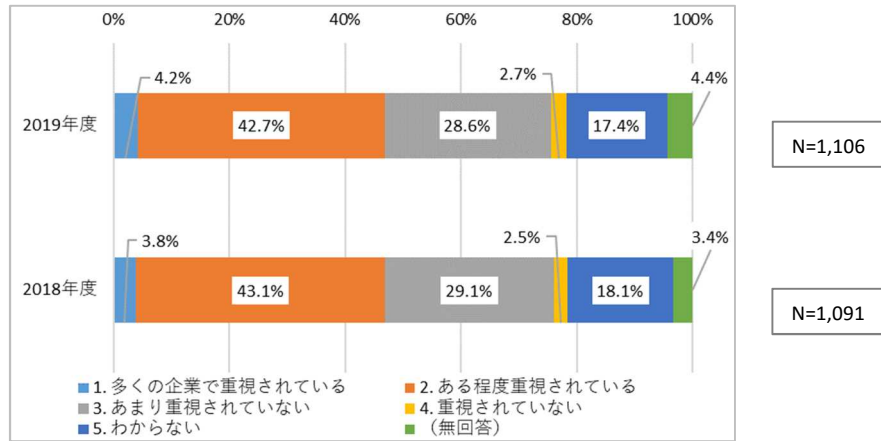
N=1,106

N=1,091

(2) 企業の選考活動における学業成果の重視について

○企業の採用選考活動において、学生を評価する際に大学等における学業成果（成績や履修履歴等）が重視されていると思うかを尋ねたところ、「多くの企業で重視されている」「ある程度重視されている」と回答した大学等は46.9%であった。
○昨年度と同じ割合であった。

企業の採用選考活動において、学生を評価する際に大学における学業成果（成績や履修履歴等）が重視されていると思いますか（当てはまるものを一つ選択）

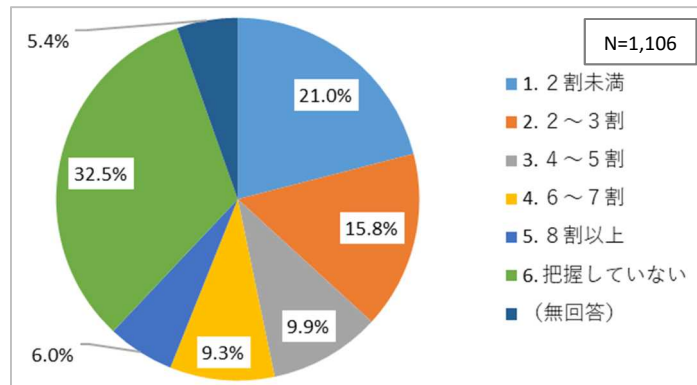


VIII. インターンシップについて

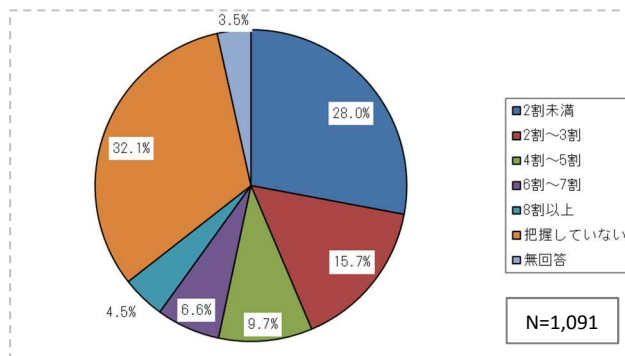
(1) 学生のインターンシップへの参加状況について

○学生のうち、どのくらいが大学以外の機関のインターンシップへ参加したかを尋ねたところ、「2割未満」との回答が最も多く21.0%、次いで「2割～3割」（15.8%）であった。

学生のうち、どのくらいが大学以外の機関のインターンシップへ参加しましたか（当てはまるものを一つ選択）



[参考：昨年度調査]

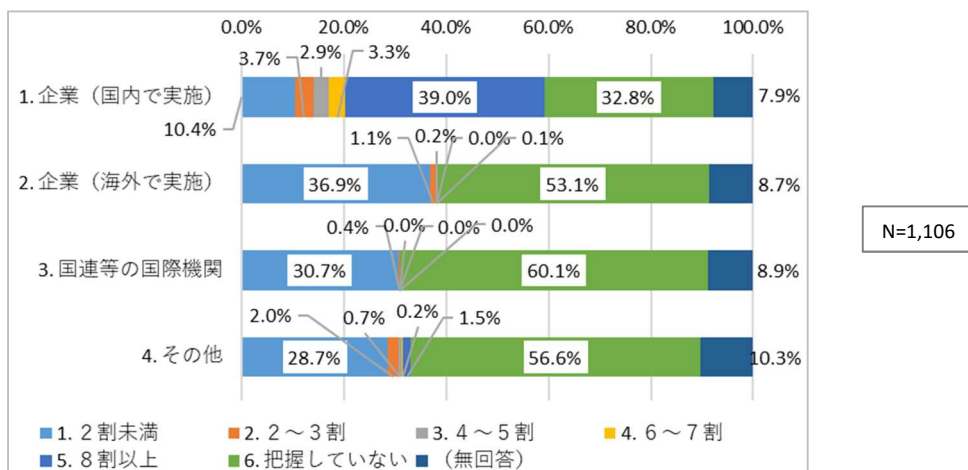


(2) 学生が参加したインターンシップの機関別割合について

○学生が参加したインターンシップの機関別割合を尋ねたところ、「企業（国内で実施）」においては「8割以上」との回答が多かったが、その他の機関における場合は「2割未満」との回答が多かった。

○また「把握していない」との回答がいずれの機関においても多くを占めている。

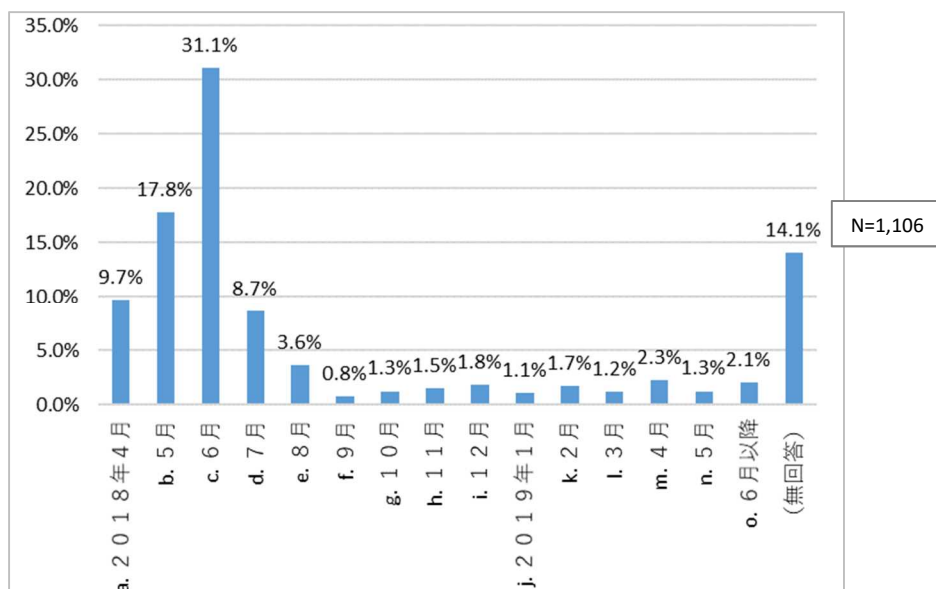
上記の学生が参加したインターンシップの機関別割合を御回答ください（各項目当てはまるものを一つ選択）



(3) 学生がインターンシップの準備を始めた時期について

○学生がインターンシップの準備を始めた時期を尋ねたところ、「2018年6月」が31.1%で最も多く、次いで「2018年5月」（17.8%）であった。

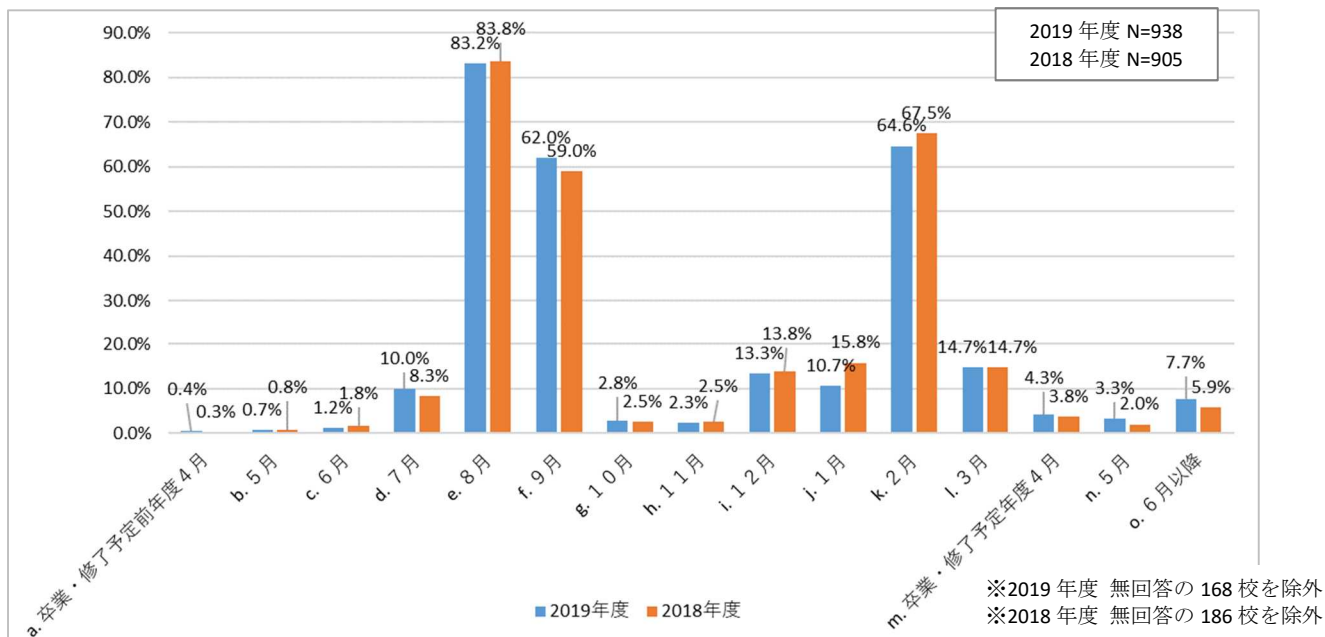
学生がインターンシップの準備（情報収集・エントリー面談等）を始めた時期はいつですか（当てはまるものを一つ選択）



(4) 学生が企業のインターンシップに参加した時期について

○学生が企業のインターンシップに参加した時期について尋ねたところ、「2018年8月」が83.2%と最も多く、次いで、「2019年2月」（64.6%）であった。

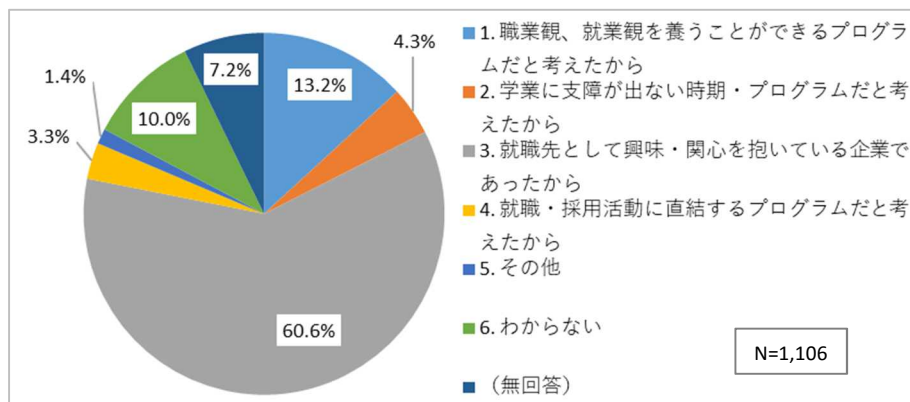
学生が企業のインターンシップに参加した時期はいつですか（参加の多い順に三つ選択）



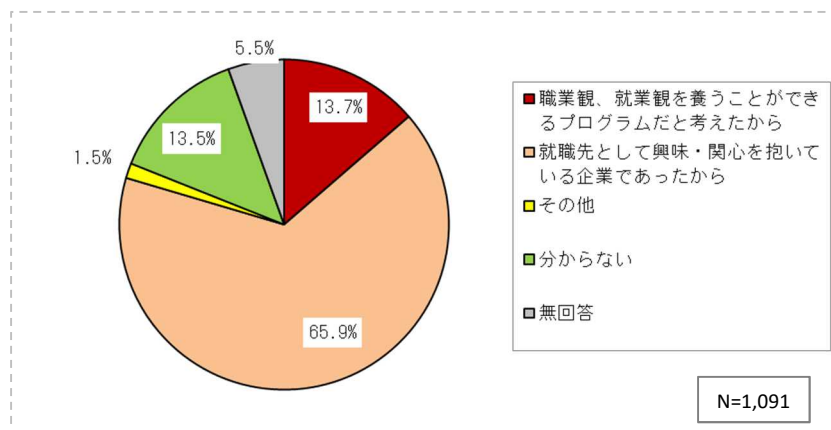
(5) 学生がインターンシップ先を選択する基準について

○学生はどのような基準でインターンシップ先を選択しているかを尋ねたところ、「就職先として興味・関心を抱いている企業であったから」が最も多く60.6%で、次いで「職業観・就業観を養うことができるプログラムだと考えたから」(13.2%)であった。

貴学の学生はどのような基準でインターンシップ先を選択していますか（最も当てはまるものを一つ選択）



[参考：昨年度調査]

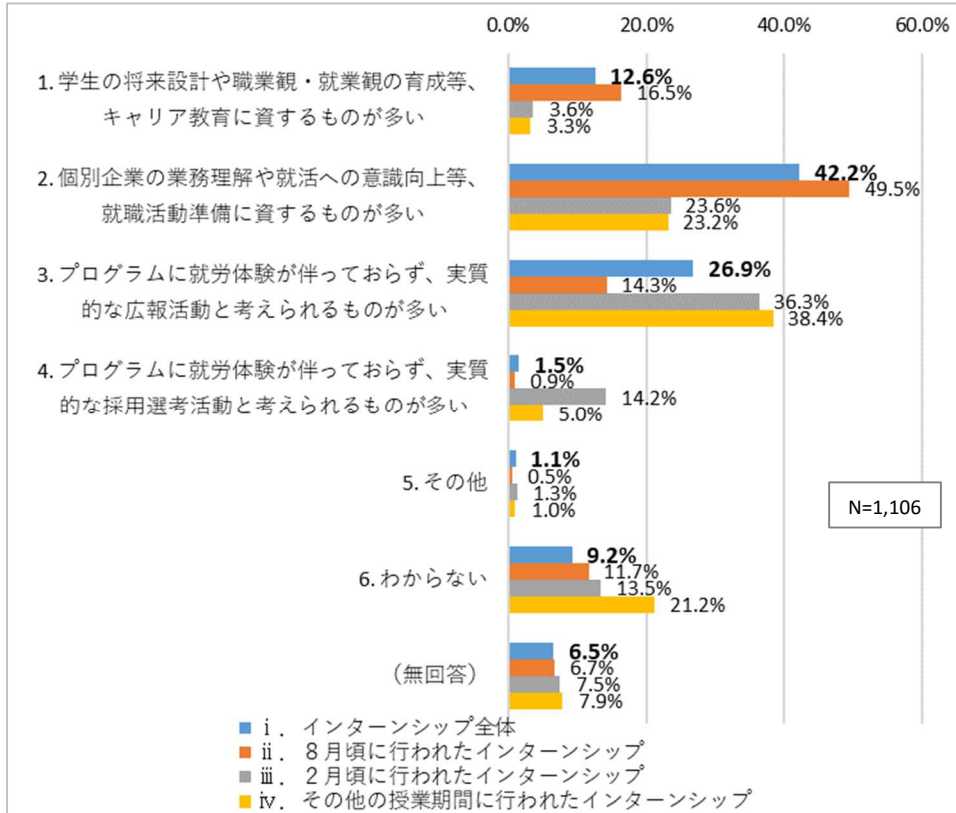


(6) 企業のインターンシップへの認識について

① プログラム内容について

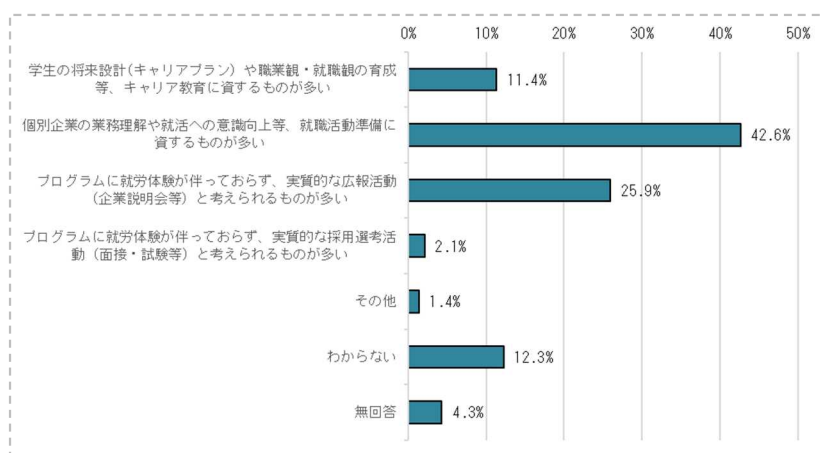
○企業のインターンシップについて、そのプログラム内容に関してどのような認識を持っているかを尋ねたところ、インターンシップ全体及び8月頃のインターンシップについての認識では、「就職活動準備に資するものが多い」が最も多く、2月頃やその他の授業期間のインターンシップについては、「実質的な広報活動と考えられるものが多い」が最も多かった。

企業のインターンシップについて、どのような認識をお持ちですか（最も当てはまるものを一つ選択）

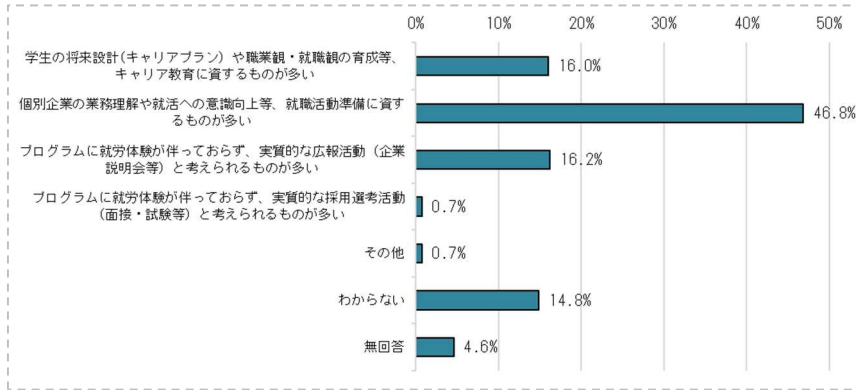


[参考：昨年度調査]

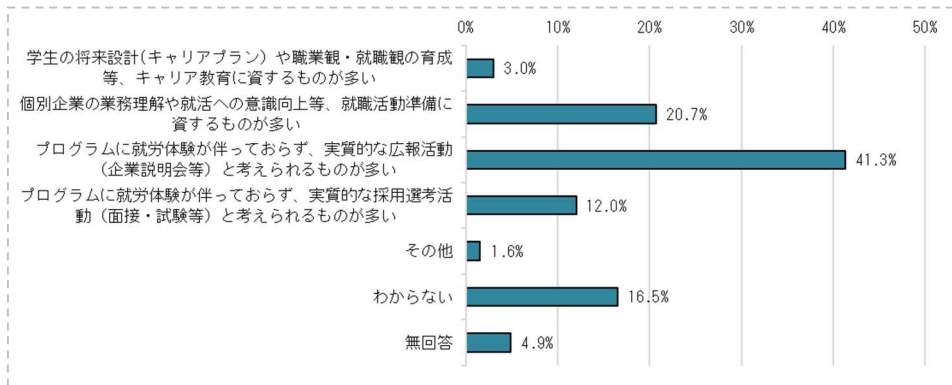
i. インターンシップ全体



ii. 8月頃に行われたインターンシップ



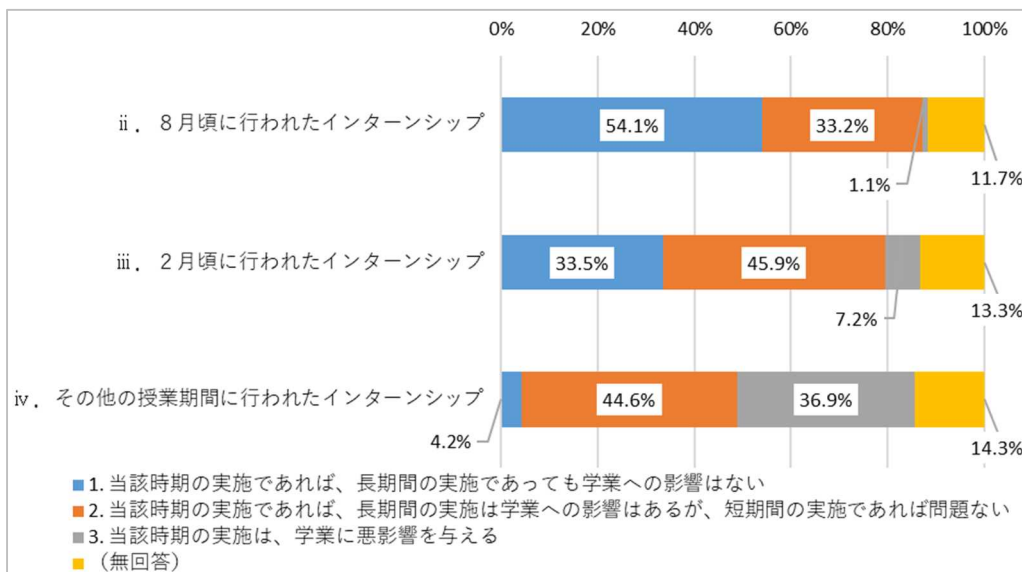
iii. 2月頃行われたインターンシップ



②実施時期について

○企業のインターンシップについて、その実施時期に関してどのような認識を持っているかを尋ねたところ、8月頃に行われたインターンシップについては「当該時期の実施であれば、長期間の実施であっても学業への影響はない」との回答が54.1%だったが、他の時期に行われたインターンシップについては「当該時期の実施であれば、長期間の実施は学業への影響はあるが、短期間の実施であれば問題ない」との回答が多かった。

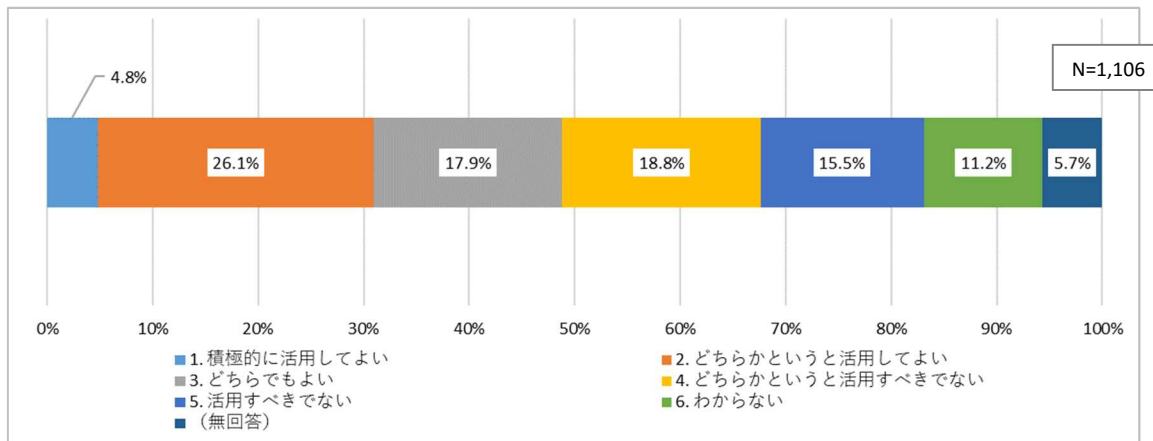
企業のインターンシップについて、どのような認識をお持ちですか（最も当てはまるものを一つ選択）



(7) インターンシップで得た学生情報の広報活動・採用選考活動への活用について

○インターンシップで得た学生情報を広報活動・採用選考活動へ活用することについてどう考えるかを尋ねたところ、「積極的に活用してよい」「どちらかという活用してよい」との回答が30.9%であった一方で、「どちらかという活用すべきでない」「活用すべきでない」との回答は34.3%であった。

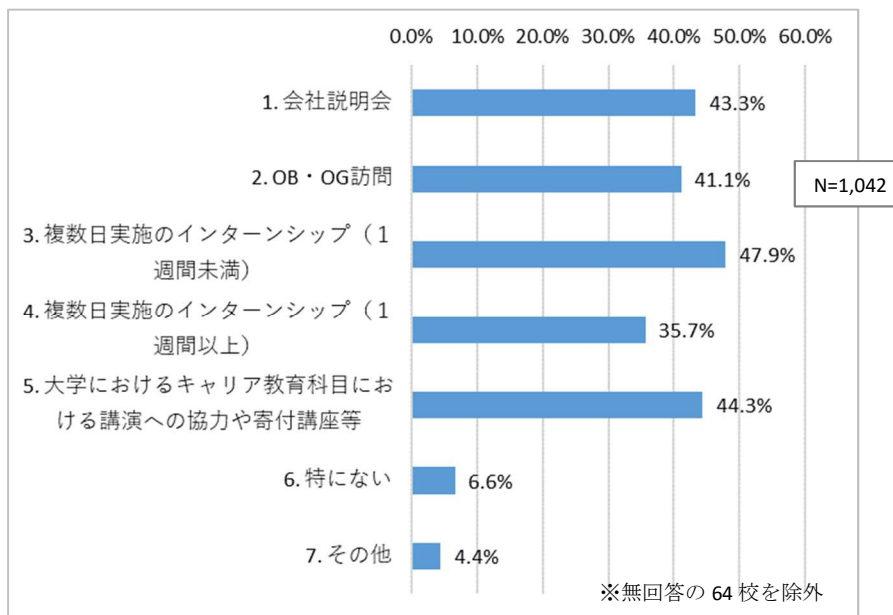
現在、インターンシップで得た学生情報を採用活動に使用することは原則認めていませんが、広報活動・採用選考活動へ活用することについてどう考えますか（当てはまるものを一つ選択）



(8) 学生が自ら職業を選択できる能力を身に付けるために企業に取り組んでもらいたいと考えるものについて

○個々人の個性や適性に合った職業を学生自ら選択できる能力を学生が身に付けるために、現状と比べて企業に取り組んでもらいたいと考えるものを尋ねたところ、「複数日実施のインターンシップ（1週間未満）」、「大学におけるキャリア教育科目における講演への協力や寄付講座等」「会社説明会」といった回答が多くみられた。

学生の職業観や勤労観を涵養し、個々人の個性や適性に合った職業を学生自ら選択できる能力を学生が身に付けるために、現状と比べて企業に取り組んでもらいたいと考えるものは何ですか（当てはまるものを三つまで選択）

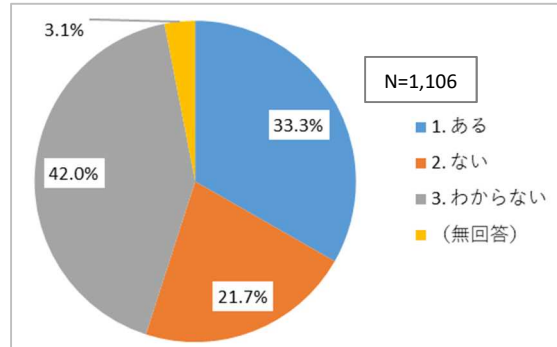


Ⅸ. 2020年度の就職・採用活動について

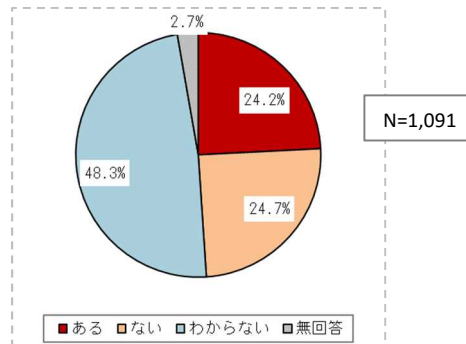
(1) 2020年度の就職活動についての不安や課題について

○2020年度の就職・採用活動がオリンピック・パラリンピック大会期間と就職・採用活動時期が重なることに伴い、就職活動にとって不安や課題と考えることはあるか尋ねたところ、「ある」との回答が33.3%であった。

2020年度の就職・採用活動は、オリンピック・パラリンピック大会期間と就職・採用活動時期が重なりますが、就職活動にとって不安や課題と考えることはありますか（当てはまるものを一つ選択）



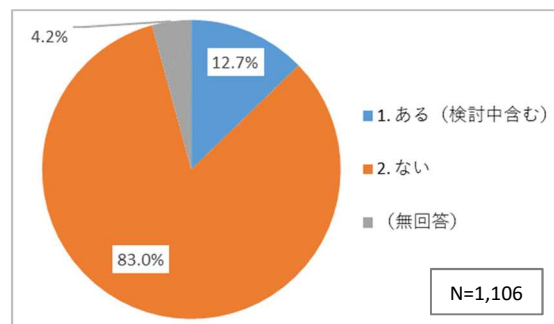
[参考：昨年度調査]



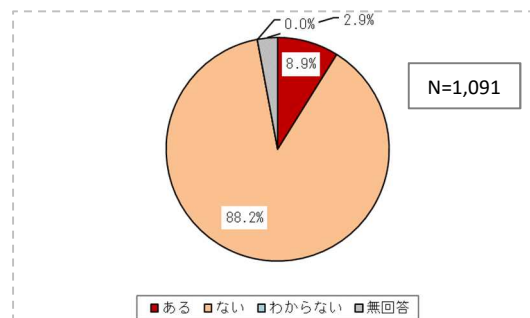
(2) 2020年度の就職活動のための特別な対応について

○現時点において、2020年度の就職活動のために特別な対応を行う予定の有無を尋ねたところ、「ある（検討中含む）」との回答は12.7%であった。

現時点において、2020年度の就職活動のために通常の就職支援とは別に特別な対応を行う予定はありますか（当てはまるものを一つ選択）



[参考：昨年度調査]

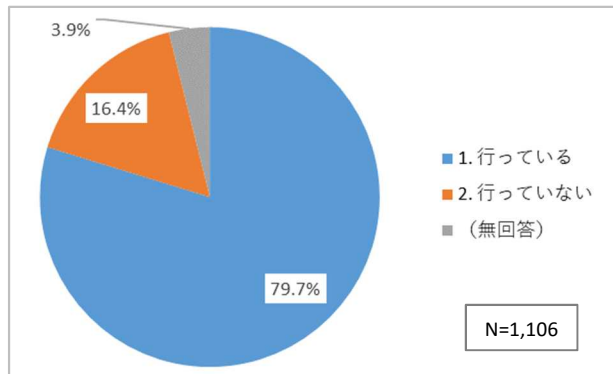


X. その他

(1) 卒業後の学生への支援について

○卒業後の学生への支援を行っているかについて尋ねたところ、「行っている（検討中含む）」との回答が79.7%であった。

申合せにおいて、企業等に対して、卒業・修了後少なくとも3年間は新規卒業・修了予定者の採用枠に応募できるような募集条件を設定するなど、適切な対応を求めているところですが、大学等においては、卒業後の学生への支援を行っていますか（当てはまるものを一つ選択）



以上